

安曇野市環境基本計画

～ みんなで安曇野の環境を考えよう～

平成 26 年度 年次報告書

平成 27 年 3 月

安 曇 野 市

- 目 次 -

1 平成 26 年度の取り組みの概要	1
2 平成 26 年度の取り組み結果	3
2.1 環境基本計画推進会議	3
2.1.1 会議の開催状況	3
2.1.2 会議の成果	5
2.1.3 「市全体のテーマ」について	6
2.2 安曇野環境市民ネットワーク	7
2.2.1 概要と事業内容	7
2.2.2 平成 26 年度の経過	8
2.2.3 加盟団体の活動状況	9
2.3 環境基本計画庁内調整会議	10
2.4 環境審議会	11
2.5 安曇野環境フェア 2014	12
2.5.1 開催のねらい	12
2.5.2 開催概要	12
2.5.3 準備スケジュール	13
2.5.4 印刷物等の資料作成	14
2.5.5 助成などについて	14
3 行動計画実施結果	15
3.1 行動計画について	15
3.2 重点プロジェクトの一覧	15
3.3 各重点プロジェクトの結果	21
4 次年度へ向けて	81
4.1 市全体のテーマの進行	81
4.2 重点プロジェクトの推進	82

はじめに

雄大な北アルプスの麓に広がり、清らかな水と緑豊かな自然に育まれた田園産業都市安曇野市は、平成 19 年度に策定した安曇野市環境基本計画に基づいて、計画の実施を推進すると共に、一昨年には計画の中間見直しを図り、本年はその 2 年目としての進捗状況の確認と評価を行ってきました。

環境基本計画の推進にあたりましては、計画された諸施策や行動計画に照らしてそれぞれの進捗状況を考察し、評価をしてみましたが、概ね計画に沿って、着実に進捗している事を確認し、良好であると評価いたしました。

計画された諸施策や行動計画は、市民、事業者、行政のそれぞれにおいて、極端な無理をせずに、倦まず弛まぬ息の長い取り組みが出来ることこそが肝要であるとして計画され、一步一步着実に前進を図るという方針を堅持し取り組んでまいりました。今後とも、市民、事業者、行政が共に携えあって、わが安曇野市の環境を守り、育みましょう。

平成 27 年 3 月

安曇野市環境基本計画推進会議

会 長 千 國 温

1 平成 26 年度の取り組みの概要

平成 26 年度は、第二次環境行動計画に基づく活動の初年に当たります。

第一次行動計画で取り組まれてきた重点プロジェクトの中には、環境基本計画以外の他計画等で重点的に取り組まれていたものも認められました。そこで第二次環境行動計画では、環境基本計画における平成 24 年度の見直し結果を踏まえた上で、第一次行動計画で取り組まれてきた重点プロジェクトを検証し、取り組み方針について「環境行動プロジェクト(プログラム化と進行管理)」と、「計画推進プロジェクト(計画に沿った推進と実践)」の二つに区分されました。平成 26 年度は、第二次環境行動計画で定められたこの 2 つの区分にしたがって、活動を展開しました。

「環境行動プロジェクト(プログラム化と進行管理)」では、主体となる市民、事業者、行政が具体的に何をすればよいのか分かる形で環境に関する行動のプログラム化を行い、全市的に展開していくことを目指しました。また、「計画推進プロジェクト(計画に沿った推進と実践)」では、他計画の方針に沿った取り組みについて推進会議で進行管理を行い、推進と実践を進めました。

重点プロジェクトの区分

環境行動プロジェクト(プログラム化と進行管理)

ねらい

- ・取り組みが必要な活動について、市民、事業者、行政が何をすればよいのか分かるようプログラム化し、具体的に進めていきます。
- ・達成度が分かるよう数値目標を設定し、進行を管理します。

網羅する範囲

- ・第一次行動計画では取り組みが十分ではなかった活動
- ・他計画では網羅しきれっていない活動

計画推進プロジェクト(計画に沿った推進と実践)

ねらい

- ・庁内調整会議など関係部署と連携しながら、進行を管理します。
- ・年度内に 2 回程度の頻度で、関係部署の担当者から進捗状況について報告を受け、工程が遅れたり見直しが必要と判断される項目については、取り組みの改善を要望します。

網羅する範囲

- ・他計画等で推進されている活動

また、7回目となる「安曇野環境フェア 2014」が開催され、市民への幅広い展開を図るため、会場デザインも例年どおりの配置を変更し、一体感や連帯感を生み出せるよう配慮しました。2日間で約2,000名の来場者が訪れ、盛況な結果となりました。

表1に、平成26年度における取り組みの概要を示します。

表1 平成26年度の取り組みの概要

区分	名称	内容
推進体制	環境基本計画 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の開催（計7回） ・年次計画の策定、進捗状況の確認および評価、年次報告書の作成。
	安曇野環境市民 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野環境フェア 2014 を安曇野市、安曇野環境フェア実行委員会と共催した。
	環境基本計画 庁内調整会議	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の取り組みについて確認した。 平成25年度 市環境基本計画年次報告書 平成26年度 市環境基本計画年次計画書 平成25年度 市地球温暖化防止実行計画
	環境審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 市環境基本計画年次報告書の承認
イベント等	安曇野環境 フェア 2014	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年10月11日、12日の2日間にわたり開催した。 ・69団体と個人等による出展があり、2日間で約2,000名の方が来場した。

2 平成 26 年度の取り組み結果

2.1 環境基本計画推進会議

2.1.1 会議の開催状況

環境基本計画を推進する主体である「環境基本計画推進会議」は、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、進捗状況の点検・評価と年次報告の作成を主な目的としています。委員は、事業団体の推薦を受けた者、環境保全活動団体の推薦を受けた者、公募により選考された市民、市長が必要と認めた者（環境基本計画策定委員経験者）からなる 16 名で構成されています。

平成 26 年度は、「第二次環境行動計画」で策定された重点プロジェクトを推進するため、年次計画の策定から実施状況の把握、平成 26 年度の評価等について、7 回の推進会議を開催しました。また、このほかにもワーキンググループ(WG)ごとの会合も開かれています。

WGの編成を表 2 に、推進会議等の経過を表 3 に示し、重点プロジェクトの実施状況については、「3-3. 各重点プロジェクトの結果」にまとめました。

表 2 ワーキンググループ(WG)の編成

WG名	対象の重点プロジェクト
自然	安曇野にふさわしい生態系を守る 森づくりを推進する 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る 地元産農産物の地域内での消費拡大を図る
景観・まちづくり	身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする 豊かな地下水を保全する 臭気規制を導入する
資源・エネルギー	緑化と省エネを主体とした CO2 削減に取り組む ごみを減らそう 環境マネジメントシステムを導入する 自然エネルギー導入を進める

表 3 安曇野市環境基本計画推進会議の経過

日 時	会議名称	内 容
平成 26 年 4 月 22 日	第 1 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・計画推進プロジェクトの年次計画について確認した。 ・環境行動プロジェクトについて、平成 26 年度ワーキンググループの編成を確認し、それぞれの事業計画を検討した。 ・年間スケジュールを確認した。
7 月 15 日	第 2 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野環境フェア 2014 について検討した。 ・環境行動プロジェクトの進捗状況を確認した。 ・今後の環境行動プロジェクトについて、WG ごとに確認した。
9 月 30 日	第 3 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市版レッドデータブック 2014、およびシンポジウムについて確認した。 ・安曇野環境フェア 2014 について確認した。 ・年次計画経過報告と、新年度事業について検討した。
11 月 11 日	第 4 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・計画推進プロジェクトについて、進捗状況を確認した。 ・安曇野環境フェア 2014 の開催結果について確認した。
平成 27 年 1 月 20 日	第 5 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実施プログラムについて検討した。（WG ごと及び全体）
3 月 10 日	第 6 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書（案）と新年度年次計画書（案）について検討した。
3 月 24 日	第 7 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・計画推進プロジェクトについて、平成 26 年度成果を確認した。 ・年次報告書（案）について検討した。 ・安曇野市地球温暖化対策実行計画の次年度の検討手法を検討した。

2.1.2 会議の成果

(1) 行動計画の進捗管理

平成 26 年度実施計画に記載された各重点プロジェクトについて進捗管理を行い、年度末には実施状況について評価を実施しました。

評価の際には次年度への課題も整理し、新たな施策等の検討・提案をおこなうことができました。（成果：平成 26 年度 年次報告書）

(2) 計画推進のための啓発活動への寄与

推進会議メンバーが、環境フェア実行委員会に参加し、準備段階から深く関わりました。また、フェア本番には、会場での様々な役割を担ったことにより、推進会議設置の目的である「計画推進のための啓発活動」に大きく寄与することができました。

（成果：安曇野環境フェア 2014 の企画・開催）

(3) 年次計画の策定

今年度の重点プロジェクトの実施状況から評価をおこない、課題点を抽出した後、次年度計画では、課題点解決のための文言修正や施策の追加等をおこなうことができました。

（成果：平成 27 年度 実施計画）

2.1.3 「市全体のテーマ」について

「市全体のテーマ」とは、安曇野市の環境をより良くするために、市民・事業者・行政の各主体が積極的に取り組む共通テーマであり、共通の目標に向かって各主体が取り組むことにより、目に見える形で成果が上がることを期待しています。「市全体のテーマ」を現在進行中の重点プロジェクトとリンクさせるとともに、環境フェアや各種生涯学習講座との連携をはかって目に触れる機会を増やすことにより、市民など様々な人々の関心を高め、取り組みへの機運が高まることを目的としています。

「市全体のテーマ」は、以下の2つです。

年次テーマ 『安曇野の環境を知り、育み、伝える』 ～みんなで広げよう活動の輪～

【選定の理由】

- ・現在すでに活動している人、これまで活動していなかった人、個人(我(わ))・仲間(輪(わ))が広がり(環(わ))、協調(和(わ))し、それぞれが繋がって「活動の輪(わ)」を広げます。
- ・これにより、市民自らの手で安曇野の環境をより良くしていくことを目指します。

長期テーマ 『地球温暖化防止にみんなで取り組む』

【選定の理由】

- ・地球温暖化による気温の上昇はすでに実感として感じられるようになってきており、地球温暖化防止は地球全体で取り組むべき課題と言えます。
- ・地球温暖化は地球規模の環境問題ですが、防止のためには日々の暮らしや営みの中で地道に取り組む必要があることから、安曇野市環境基本計画の期間を通じた共通のテーマとして、継続的に取り組みます。

【関連する重点プロジェクト】

緑化と省エネを主体とした CO₂ 削減に取り組む
森づくりを推進する
環境マネジメントシステムを導入する
自然エネルギー導入を進める

2.2 安曇野環境市民ネットワーク

2.2.1 概要と事業内容

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内全域または各地域において環境保全のための活動をおこなっている各種団体のとりまとめ、および連絡・調整をおこなうことを目的として平成 21 年 9 月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて コミュニケーション、 環境学習の企画と実施、 環境基本計画および行動計画の実施、 普及啓発の 4 つです。

表 4 安曇野環境市民ネットワークの事業内容

区 分	内 容
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・ ネットワーク参加団体および個人に関する情報の提供と公開・ 参加者同士のコミュニケーション・ 交流会等の企画
環境学習の企画と実施	<ul style="list-style-type: none">・ 環境学習プログラムの企画と実施・ 環境学習におけるリーダー等、地域に貢献できる人材の育成・ ネットワークのつながりを活用した環境学習の企画と実施
環境基本計画および行動計画の実施	<ul style="list-style-type: none">・ 環境基本計画、環境行動計画の推進への協力・ 環境保全上の課題への対応
普及啓発	<ul style="list-style-type: none">・ インターネット上での情報公開・ 活動拠点における情報提供・ 各種環境イベントの企画と運営、参加と協力

2.2.2 平成 26 年度の経過

平成 26 年度は、総会、全体会、運営委員会を各 1 回開催しました。また、ネットワーク加盟団体の情報発信及び交流を深めることを目的とした談話会「環カフェ」を計 4 回おこないました。

表 5 安曇野環境市民ネットワークの経過

日 時	会議等名称	内 容
平成 26 年 5 月 8 日	全体会	・明科中学校の総合的な学習の時間 「ホームタウン明科」講師依頼対応について
7 月 11 日	第 1 回 「環カフェ」	・テーマ「被災地・福島を訪れて」 安曇野ふるさとづくり応援団 等々力 秀和さん
9 月 12 日	第 2 回 「環カフェ」	・テーマ「地球温暖化を俯瞰する」 安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会 本木 修一さん
11 月 14 日	第 3 回 「環カフェ」	・テーマ「守ろう！安曇野の水環境」 安曇野市消費者の会 平林 千代さん
平成 27 年 1 月 16 日	第 4 回 「環カフェ」	・テーマ「方言を通して地域の輪を広げよう」 安曇野百選プロジェクト 横田 耕太郎さん
3 月 10 日	運営委員会	・平成 26 年度総会について
3 月 26 日	総会	・平成 26 年度事業報告及び収支決算 ・平成 27 年度事業計画及び収支予算

これらの会議等以外にも、昨年度より引き続き、安曇野環境フェアの実行委員会はネットワーク加盟団体の会員を中心に組織され、環境フェアの共催・運営をおこなったほか、明科中学校の総合的な学習の時間「ホームタウン明科」における講師依頼への対応として、講座を計 9 回おこないました。また、今年度は、国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区で開催された、安曇野の里山保全に関する講座「さとやま楽校」や、市の開催した自然観察会の講師をネットワーク加盟団体の会員などが務めました。



2.2.3 加盟団体の活動状況

環境基本計画推進会議との情報共有を目的とし、加盟団体の年度内の活動状況の報告を依頼したところ、全 24 団体のうち、17 団体より報告をいただきました。91 ページ以降の参考資料 6 に団体ごとの活動状況を記載しています。

表 6 報告を受けた団体一覧

活動分野	団体名
自然	野生生物資料情報室
自然	安曇野緑の会
自然	NPO 法人 川の自然と文化研究所
自然	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」
自然	烏川溪谷緑地市民会議
自然 農林	NPO 法人 森倶楽部 21
景観	三角島ふるさとの森プロジェクト
景観	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
景観	アルプス花街道実行委員会
景観	安曇野ふるさとづくり応援団
景観	安曇野百選プロジェクト
自然・生活・資源	安曇野市消費者の会
自然・資源・ 農林・生活	生活協同組合コープながの
地球温暖化防止	安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会
地球温暖化防止	マイ箸づくりサポートボランティア
全般	安曇野工業会
全般	安曇野市商工会

2.3 環境基本計画庁内調整会議

庁内の担当課を明確化した上で、関連する施策の連携を強化し、環境に関する施策・事業を効果的に推進するため、庁内の連絡調整をおこなうことおよび庁内地球温暖化防止実行計画等の策定・推進・評価等をおこなうことを目的として設置しました。

表7 環境基本計画庁内調整会議の経過

日付	会議名称	内容
平成26年 5月23日	庁議	平成25年度 市環境基本計画年次報告書について（報告） 平成26年度 市環境基本計画年次計画書について（報告） 概要：年次報告書、年次計画書の内容を説明し了承された。
7月2日	庁議	市地球温暖化防止実行計画に係る平成25年度の取り組み結果について（報告） 概要：CO2 排出量は基準年度（H20）と比較して約6%（441,134Kg）の増加 増加理由 保育園、交流学習センター、給食センターなどの施設の新築や改築 保育園、小学校などの冷暖房設備の設置や改修 猛暑や厳冬などの気候による要因 各部署への依頼事項 「省エネ」を心掛け「無駄なエネルギーを減らす」取組を依頼

2.4 環境審議会

安曇野市環境基本条例に基づき設置されるもので、環境基本計画に関することや環境保全に関する基本的事項を調査審議するための、学識経験者中心の諮問機関です。

環境問題に対し、市長の諮問に応じ答申することのほか、環境基本計画の進捗状況を管理する「環境基本計画年次報告」の承認等をおこなっています。

表 8 環境審議会の経過

日付	会議名称	内容
平成 26 年 4 月 28 日	第 1 回 環境審議会	平成 25 年度 市環境基本計画年次報告書について（報告）

2.5 安曇野環境フェア 2014

2.5.1 開催のねらい

安曇野環境フェアは、「環境基本計画」に基づく取り組みの一環として、7回目となりました。

本フェアでは、「環境基本計画」で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、参加していなかった人も巻き込みながら参加者同士がお互いの顔を見えるようにし、つながりの環を広げていくことを目指しました。

今回の開催の目的は、以下の3点でした。

環境に関する課題を市民が共有できる場を提供する。

出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人を巻き込む。

参加者同士がお互いの顔を見えるようにし、つながりの環を広げる。

2.5.2 開催概要

【基本コンセプト】安曇野の環境を知り、育み、伝える

～みんなで広げよう活動の輪～

【テーマ】「安曇野にすむ生きものを知ろう！」

【主催】安曇野市、安曇野環境フェア 2014 実行委員会

【共催】安曇野環境市民ネットワーク

【日時】平成 26 年 10 月 11 日（土） 9:30～16:00

12 日（日） 9:00～16:00

【会場】安曇野市堀金総合体育館（安曇野市堀金烏川 2662）

【開催内容】

- パネル展示と体験コーナー（11日～12日）
 - ・市民団体、企業等による展示：計 69 団体・個人
 - ・企画展「安曇野にすむ生きものを知ろう！」
- 安曇野市版レッドデータブックの紹介（11日）
 - ・今年度発刊された「安曇野市版レッドデータブック」の概要紹介
- 環境活動発表会（12日）
 - ・発表：安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会、あづみ太陽光発電研究会、日本チェルノブイリ連帯基金 Team めとば、(株)サン工機、ユアサ電器(株)、穂高北小学校、明科中学校、エクセラン高等学校
- ホーボーズ・パペットシアター人形劇（11日～12日）
 - ・演目：たぬきどんと雪だるま（11日）、いっすんぼうし（12日）
- 子ども広場（11日～12日）
 - ・段ボール迷路、積み木コーナー

- リサイクル自転車の展示・頒布（11日）
 - ・ 豊科リサイクルセンターで修理・再生された自転車の展示・頒布（抽選）
- 水で遊べるおもちゃづくり（12日）
 - ・ 堀金中央公園にて、水で遊べるおもちゃ作りの体験
（講師：豊科郷土博物館 館長）
- 「緑のカーテン」コンテスト表彰式（12日）
 - ・ 市内の住宅、事業所等に設置された「緑のカーテン」のコンテスト表彰式

【同時開催】

- 漫才 & 科学実験ショー（11日）
 - ・ タメになる漫才と本格的な科学実験によるショー
（主催：安曇野市教育委員会 出演：ボルトボルズ、サイエンス演芸師善ちゃん）
- 「地下水で拓く安曇野の未来」シンポジウム（12日）
 - （主催：安曇野市）
- 屋敷林見学会（11日）
 - ・ ガイドの説明による会場周辺の屋敷林の見学
（主催：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト）
- 表彰式
 - ・ 「三角島」スケッチ大会表彰式
（主催：三角島ふるさとの森プロジェクト）

【来場者数】

10月11日（土）約1,200名

12日（日）約800名

2日間の合計 約2,000名

2.5.3 準備スケジュール

準備スケジュールは以下のとおりでした。

- | | |
|----------|---------------------------|
| 5月22日（木） | ・ 第1回事務局会議 |
| 6月17日（火） | ・ 第1回実行委員会 |
| 6月30日（月） | ・ 第2回事務局会議 |
| 7月8日（火） | ・ 第2回実行委員会 |
| 7月15日（火） | ・ 第3回事務局会議 |
| 7月22日（火） | ・ 企画・広報会議 |
| 7月23日（水） | ・ 【広報】広報あづみの発行：出展団体申込受付開始 |
| 8月18日（月） | ・ 【広報】ポスター、チラシ原稿入稿 |
| 8月24日（日） | ・ 信州環境フェア視察 |
| 8月25日（月） | ・ 第4回事務局会議 |
| 8月26日（月） | ・ 出展団体申込締切 |

- 8月28日(木) ・【広報】ポスター、チラシ原稿完成
- 8月29日(金) ・第3回実行委員会、出展者説明会
- 9月2日(火) ・【広報】広報折込(9/17発行、出展団体一覧)原稿入稿
- 9月12日(金) ・第4回実行委員会
- 9月17日(水) ・【広報】広報あづみの発行：出展団体一覧折込
- 9月19日(金) ・【広報】学校向けチラシ原稿入稿
- 10月3日(金) ・【広報】ラジオ(あづみ野エフエム)での告知生出演
- 10月3日(金) ・【広報】フェア当日配布プログラム原稿入稿
- 10月6日(月) ・第5回実行委員会
- 10月9日(木) ・会場準備(パネル設置位置マーキング等)
- 10月10日(金) ・会場準備(パネル設置、出展者搬入等)
- 10月11日(土) ・当日準備、開催1日目
- 10月12日(日) ・開催2日目、閉会后撤収
- 10月24日(金) ・振り返り、懇親会

2.5.4 印刷物等の資料作成

フェア告知用資料、当日配布資料として以下の印刷物を作成しました。

- ・告知用ポスター
- ・告知用チラシ
- ・小学校向け告知用チラシ
- ・広報あづみの原稿
- ・当日配布用プログラム
- ・缶バッジ
- ・アンケート(来場者、出展者、スタッフ)
- ・出展者名看板
- ・誘導看板
- ・受付等看板

2.5.5 助成などについて

(一社)長野県環境保全協会中信支部様より、運営資金の一部を助成いただきました。また、会場で使用する電力の一部は、特定非営利活動法人信州松本アルプスの風から購入したグリーン電力を使用しました。

3 行動計画実施結果

3.1 行動計画について

「安曇野市環境行動計画」（以下「行動計画」という。）は、安曇野市のよりよい環境づくりを目的として平成 20 年 3 月に策定した「安曇野市環境基本計画」（以下「基本計画」という。）の実現に向け、基本計画に盛り込まれた取り組みのうち、特に重点的・優先的におこなう必要のある項目をまとめたものです。

基本計画は、平成 20 年度を始期として平成 29 年度を目標年度としています。行動計画は、このうちの前半にあたる平成 25 年度までに実現する項目を取り上げています。

そして、計画に従って取り組みを進めることを前提に、主体ごと、時期ごとにおこなうべき項目を可能な限り具体的に取り上げています。

3.2 重点プロジェクトの一覧

今年度は、第二次環境行動計画で定められた「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」と、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」の 2 つに区分にしたがって、「重点プロジェクト」を区分分けしました。

重点プロジェクト別実施プログラム・事業一覧

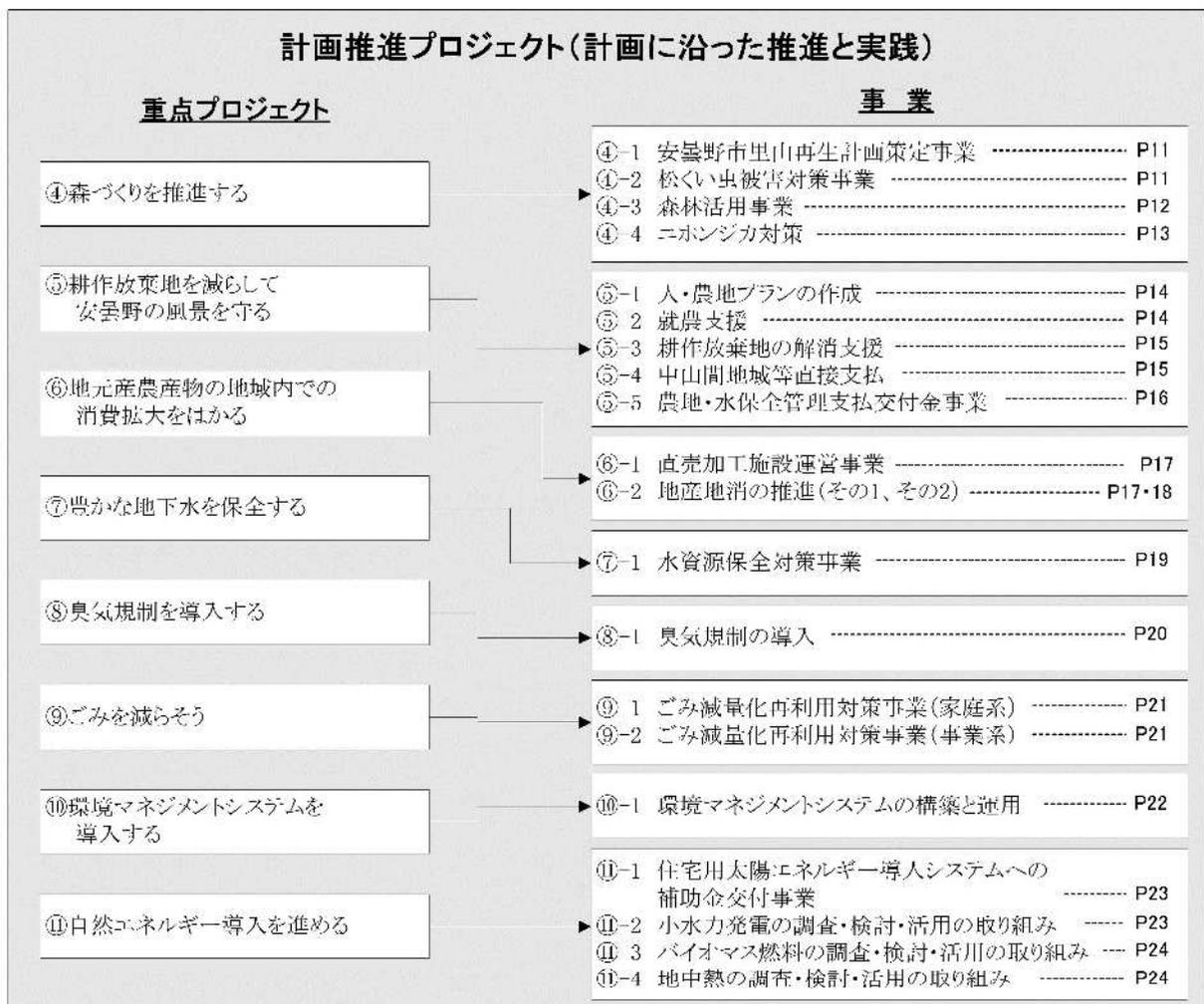
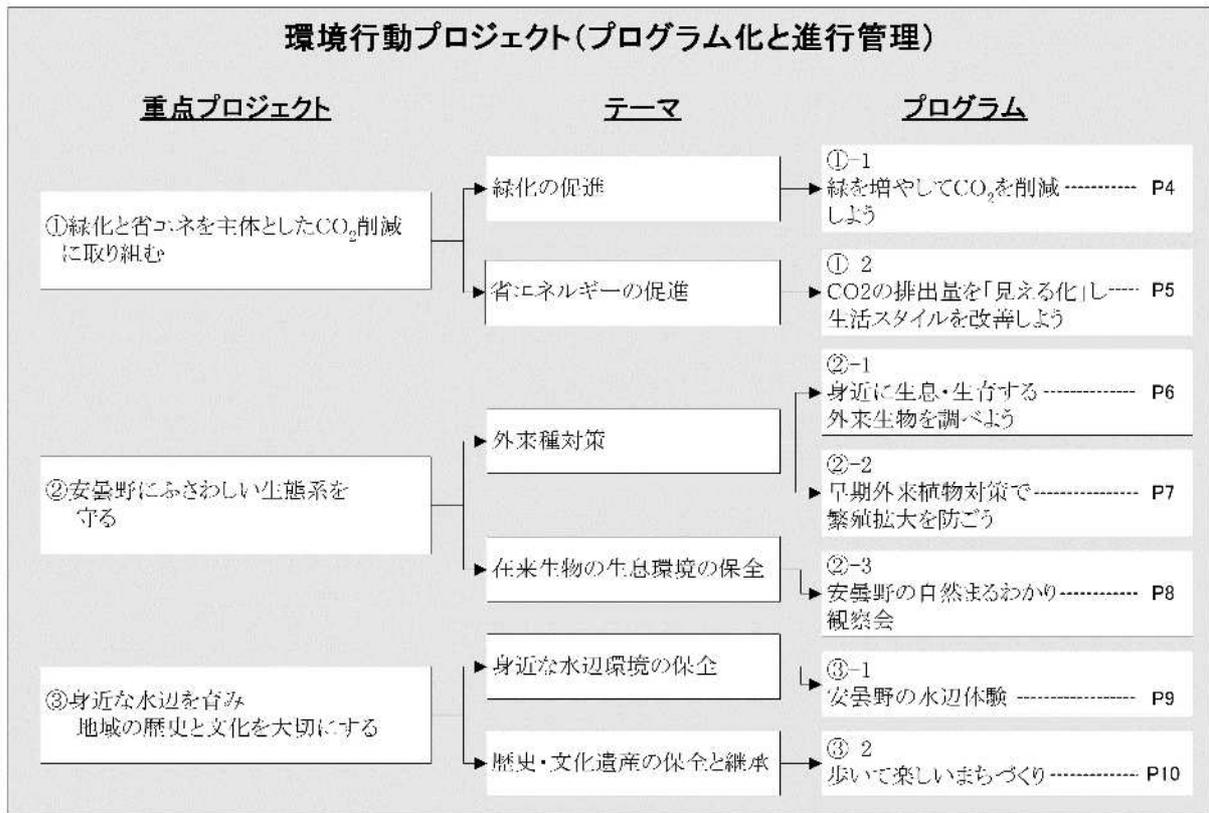


表 10 (1) 環境行動プロジェクトと平成 26 年度の実施内容一覧 (1/2)

プログラム名	平成 26 年度の実施内容	
	主体	内 容
-1 緑を増やして CO2 を削減しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のカーテンの取り組み件数について任意にモニターを選定し、実施率を把握する。 ・ 今年度の目標達成率を 30%とする。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「緑のカーテン」講座の開催 ・ 「緑のカーテン」任意モニターの選定及びアンケート実施 ・ 「緑のカーテン」写真コンテストの募集 ・ 市の管理施設等での取り組みの実施
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「緑のカーテン」講座への参加 ・ 「緑のカーテン」写真コンテストへの参加 ・ 自宅や事業所での取り組みの実施
-2 CO2排出量を「見える化」し、生活スタイルを改善しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年度 (2008 年度) 比 6%以上の CO₂ を削減させる。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「安曇野市版環境家計簿」の実施 ・ 事業者への温室効果ガス排出量アンケートの実施 ・ 事業者向け環境アンケート結果を生かした啓発 ・ 安曇野市温室効果ガス排出量推計業務の実施 ・ 安曇野市地球温暖化防止実行計画の実施
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「安曇野市版環境家計簿」への参加 ・ 温室効果ガス排出量アンケートへの参加 ・ 自宅や事業所での取り組みの実施
-1 身近に生息・生育する外来生物を調べよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集した外来生物の生息・生育情報を、地図などに整理して公表する。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「注意すべき生物」の中の特定外来生物の生息・生育情報の収集 ・ 安曇野市版レッドデータブックシンポジウムの開催
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定外来生物の生息・生育情報の提供
-2 早期外来植物対策で繁殖拡大を防ごう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収集した外来生物の生息・生育情報を、地図などに整理して公表する。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来植物対策マニュアルの検討・作成 ・ アレチウリなど駆除 (研修会、駆除実施依頼、課題収集)
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレチウリなど駆除の実施 ・ アレチウリなど駆除の課題報告
-3 安曇野の自然まるわかり観察会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間 3 回 (春・夏・秋) 以上の自然観察会または学習講座を開催する。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「安曇野の自然まるわかり観察会」の実施と記録作成 ・ 「安曇野の自然まるわかり観察会」参加者募集と結果広報
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「安曇野の自然まるわかり観察会」への参加

表 10 (2) 環境行動プロジェクトと平成 26 年度の実施内容一覧 (2/2)

プログラム名	平成 26 年度の実施内容	
	主体	内容
-1 安曇野の水辺体験	・ 年 3 回の親水イベントを実施する。	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国営アルプスあづみの公園において、「水の路トレイル」での「水路」体験 ・ 県営烏川溪谷緑地での河川内水生昆虫採取及び剥製展示物見学 ・ 「地下水シンポジウム」でのイベント実施 ・ イベント参加募集と結果報告 ・ 環境フェアでの「水に関する遊具」の紹介 ・ 三角島ふる里の森プロジェクトへの協力
	市民・事業者	・ 「親水イベント」への参加
-2 歩いて楽しいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いいところ」マップを作成する。 ・ モデル地区で地区の方々年間 1 回以上の取り組みを開催する。 ・ プロジェクト中の STEP1「我が地区流」の活動案を作成する。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップ等により地元との調整をはかり、今後の活動計画を検討 ・ モデル地区での取り組みの紹介、参加募集
	市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元地区主体の事業に対して内容に応じて必要なサポートを行う ・ 市民団体・・・「楽しむ」から「受け継ぐ」過程の専門的分野での協力 ・ 市民団体と地元地区が協働して取り組めるような仕組みづくり

表 11 (1) 計画推進プロジェクトと平成 26 年度の実施内容一覧 (1/3)

事業名	平成 26 年度の実施内容	
-1 安曇野市里山再生計画策定事業	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ H26 は計画策定 ・ H27 以降は「安曇野里山再生計画」策定時に目標値設定の予定
	実施内容	・ 「安曇野市里山再生計画」の策定
-2 松くい虫被害対策事業	目標	・ 被害木伐倒駆除 : 5,000 m ³
	実施内容	・ 被害木伐倒駆除事業 (補助事業、市単事業)
-3 森林活用事業	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林 (もり) の里親促進制度 : 2 団体と契約 ・ みどりの少年団活動 : 小学校 6 校、中学校 2 校の活動 ・ 学有林活動 : 小学校 6 校、中学校 2 校の活動
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林 (もり) の里親促進事業 (契約企業と協働で森林整備を行う) ・ みどりの少年団活動 (交流集会への参加、体験学習等) ・ 学友林活動 (間伐等の森林整備体験)
-4 ニホンジカ対策	目標	・ 捕獲目標 360 頭 (内訳 : 個体数調整 80 頭、狩猟 280 頭)
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害獣捕獲 (個体数調整) ・ 狩猟による捕獲

表 11 (2) 計画推進プロジェクトと平成 26 年度の実施内容一覧 (2 / 3)

事業名	平成 26 年度の実施内容	
-1 人・農地プラン の作成	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定農業者の確保・育成 : 290 経営体 ・ 集落営農組織の設立支援 : 30 組織 ・ 担い手への農地集積 : 53.0%
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各プランの実践(個々の経営体の意向に沿った農地の流動化等)
-2 就農支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規就農者の確保・育成 : 10 人/年
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年就農給付金事業 ・ 安曇野市親元就農促進事業
-3 耕作放棄地の解 消支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地全体面積 : 51.6ha
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地再生利用対策の推進 ・ 荒廃農地解消就農者支援制度 ・ 耕作放棄地解消作業機貸し出し事業 ・ 耕作放棄地発生防止・再生事業 ・ 市、JA 共同の耕作放棄地解消に向けた取り組みに対する独自の補助制度の確立
-4 中山間地域等直 接支払	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農作物の作付率 : 88.0%
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域等直接支払交付金 ・ 安曇野市中山間地域農業直接支払事業
-5 農地・水保全管 理支払交付金事 業	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動組織の数 : 42 組織
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊休荒廃地を未然に防ぐため、多面的機能(農業用水路・農道の草刈り、泥上げ、砂利補充等) を支える組織の拡充を図る
-1 直売加工施設運 営事業	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直売所での売り上げの増加 : 13 億円 ・ 参加農家の確保 : 540 戸
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の直売所売上げは、増加傾向ではないが目標の 13 億円に近づくように図る ・ 参加農家の確保と開拓を実施する
-2 地産地消の推進	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用率 100% を維持 : 100% ・ 域産豚肉の使用率の増加 : 8% ・ 「安曇野の日」【月 1 回】及び「ご飯の日」【年 30 回】の実施回数...42 回/年
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野の食材を多く使う「安曇野の日」を月 1 回実施。また週 3 回の定期的な米飯給食の実施日と麺類・パンの給食日から米飯給食に 30 回を振り替えて米の消費を増やす。 ・ 地域産豚肉の使用率の増加
-1 豊かな地下水を 保全する	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転作田湛水面積 : 25ha
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水保全条例の運用 ・ 地下水モニタリング(水位・水質・湧出量・取水量) ・ 地下水資源強化(地下水位回復) ・ 水環境基本計画策定検討委員会の設立
-1 臭気規制を導入 する	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臭気規制地域及び規制基準の作成
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臭気規制案の作成 ・ 環境審議会への諮問、答申 ・ 規制基準の決定 ・ 説明会の開催 ・ 議会への付議、公示

表 11 (3) 計画推進プロジェクトと平成 26 年度の実施内容一覧 (3 / 3)

事業名	平成 26 年度の実施内容	
-1 ごみ減量化再利用対策事業 (家庭系)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭系ごみ排出量 (市民 1 人 1 日当たり) : 517g ・ リサイクル率 : 30.1%
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの適正分別指導・啓発 ・ 生ごみ処理機器等購入費補助金交付事業 ・ 生ごみ処理機器等導入者アンケートの実施 ・ 緑のリサイクル事業 ・ 使用済み小型家電回収事業 ・ 段ボールコンポスト講習会
-2 ごみ減量化再利用対策事業 (事業系)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業系可燃ごみ排出量 : 8,251t
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導 ・ 事業系ごみの展開検査と分別収集指導 ・ 事業者への減量化と適正処理の協力要請 ・ 収集運搬業者に向けた研修会
-1 環境マネジメントシステムの構築と運用	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入システムの決定
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内調整会議での検討 ・ 導入システムの決定・契約 ・ 導入日程の確認
-1 住宅用太陽エネルギー導入システムへの補助金交付事業	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅用太陽光発電システム設置補助事業 (補助金額 3,900 万円) ・ 住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業 (補助金額 100 万円)
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅用太陽光発電システム設置補助事業 ・ 住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業
-2 小水力発電の調査・検討・活用の取り組み	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有明土地改良区小水力発電所の設計 ・ 新規発電所の建設計画の推進
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地改良区等が実施する小水力発電事業に対する支援
-3 バイオマス燃料の調査・検討・活用の取り組み	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薪ボイラーの公共施設への導入と運用 ・ 松枯損木、間伐材等の利用によるバイオマス燃料の民間施設への供給
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薪ボイラーの運用検証 ・ 新設公共施設への薪ボイラー設置
-4 地中熱の調査・検討・活用の取り組み	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規導入事業の検討
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地中熱利用調査

3.3 各重点プロジェクトの結果

以下、重点プロジェクトごとに平成 26 年度の取り組みの結果を示します。

～ 重点プロジェクト表の見方-1 ～

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

■プロジェクトの基本事項 (事務局：岡本)

重点PJ名	①：緑化と省エネを主体とした CO2 削減に取り組む
事業名	①-1 緑を増やして CO2 を削減しよう
目的	生活環境における緑化が、エネルギーの消費を低減し CO2 削減につながる効果について学び、緑化への取り組みを推進し、温暖化防止をはかる。
目標	・緑のカーテンの取り組み件数について任意にモニターを選定し、実施率を把握する。 ・今年度の目標達成率を 30% とする。
担当課・係	環境課 環境政策係

環境行動計画で立てた基本事項です。

■本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	A	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的だった取り組みや項目 ・「緑のカーテン」講座の開催 ・市の管理施設等での取り組みの実施 ・環境フェアでの「緑のカーテン」アンケート実施 ○不十分だった取り組みや項目、その要因 ・「緑のカーテン」写真コンテスト参加者の減少 →募集方法が画一的、関心の低下

本年度の結果の総合評価です。

※平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	10					10
点数	100					100
					総合評価点数	10

※総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)
 ※総合評価 A ⇒ (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B ⇒ 7.0 ~ 8.9 点、
 総合評価 C ⇒ 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D ⇒ 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E ⇒ 0 ~ 2.9 点

■次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<ul style="list-style-type: none"> ○改善すべき取り組み・項目と修正点 ・「緑のカーテン」写真コンテストを応募作品に優劣をつけない「写真展」の形式に変更する。 ○課題や新たに設定すべき目標 ・実施項目ごとに数値目標を設定する。
-------------	--

各評価を点数で集計し、総合評価を算定します。

本年度の課題等を整理し、次年度に向けた改善点をまとめます。

評価

- ・総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)
- ・総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、
- ・総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

～ 重点プロジェクト表の見方-2 ～

■平成26年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価※
●取り組みの広報（行政） ・広報誌等による取り組みの宣伝（「緑のカーテン」講座、写真コンテストなど）【定量1】	8/1～8/31	・広報あづみの ・市HP掲載	4/23 7/23	A
	11/1～	・広報あづみの ・市HP掲載	11/19	A
●取り組みの実施（行政） ・「緑のカーテン」講座の開催（行政・推進会議・NPO法人）【定量1】 講師：NPO法人あづみ野風土舎、市民NW、推進会議委員 演題：「緑のカーテン」の育て方、「緑化活動」の紹介、「夏の省エネ対策」など 「ゴー苗」無料配布（行政） ・「緑のカーテン」任意モニターの選定及びアンケート実施（行政）【定量1】 5地域から100人無作為抽出 ・「緑のカーテン」写真コンテストの募集（行政）【定量1】 ・環境フェアで応募者写真展示及び表彰式開催（行政・推進会議）【定量1】 ・市の管理施設等での取り組みの実施（行政）【定量1】	5/24	・市民活動センターにおいて予定通り実施。 30名参加。	5/24	A
	9/1～11/30	・実施	10/11・12 (環境フェア)	A
	8/1～8/31	・実施	8/1～8/31	A
	10/11・12	・環境フェアで展示。表彰は審査基準を設け採点方式で実施	10/11・12 (環境フェア)	A
	夏季	・31施設、33箇所 で実施、ゴー苗163本、琉球アザミ299本	6/22	A
	5/24	・30名参加	5/24	A
●取り組みの実施（市民・事業者） ・「緑のカーテン」講座への参加（市民・市民NW・事業者）【定量1】 ・「緑のカーテン」写真コンテストへの参加【定量1】 ・自宅や事業所での取り組みの実施【定量2】	8/1～8/31	・14件の応募	10/12表彰 (環境フェア)	A
	夏季	・200名の回答 29%の実施率		A

本年度当初に立てた計画とその結果です。結果は評価として記号で示します。

※定量-1：実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C
 定量-2：実施数量/目標数量×100= 90～100%⇒A 60～89%⇒B 30～59%⇒C 10～29%⇒D 0～9%⇒E
 定性：良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E

評価
 ・定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
 ・定量-2：実施数量/目標数量×100= 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E
 ・定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

- 環境行動プロジェクトの結果 -

成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 岡本)

重点 PJ 名	: 緑化と省エネを主体とした CO2 削減に取り組む
事業名	-1 緑を増やして CO2 を削減しよう
目的	生活環境における緑化が、エネルギーの消費を低減し CO2 削減につながる効果について学び、緑化への取り組みを推進し、温暖化防止をはかる。
目標	・緑のカフェの取り組み件数について任意にモニターを選定し、実施率を把握する。 ・今年度の目標達成率を 30% とする。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

	【評価】	総合コメント
総合評価 (Check)	A	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緑のカフェ」講座の開催 ・市の管理施設等での取り組みの実施 ・環境フェアでの「緑のカフェ」アンケート実施 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緑のカフェ」写真コンテスト参加者の減少 募集方法が画一的、関心の低下

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	10					10
点数	100					100
					総合評価点数	10

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「緑のカフェ」写真コンテストを応募作品に優劣をつけない「写真展」の形式に変更する。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施項目ごとに数値目標を設定する。
------------------	--

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政） ・広報誌等による取り組みの宣伝（「緑のか-テン」講座、写真コンテストなど） [定量 1]	8/1 ~ 8/31	・広報あづみの ・市 HP 掲載	4/23 7/23	A
・「緑のか-テン」写真コンテスト受賞者の市広報掲載及び市 HP 掲載（行政・推進会議） [定量 1]	11/1 ~	・広報あづみの ・市 HP 掲載	11/19	A
取り組みの実施（行政） ・「緑のか-テン」講座の開催（行政・推進会議・NPO 法人） [定量 1] 講師：NPO 法人あづみ野風土舎、市民 NW、推進会議委員 演題：「緑のか-テン」の育て方、「緑化活動」の紹介、「夏の省エネ対策」など 「ゴーヤ苗」無料配布（行政）	5/24	・市民活動センターにおいて予定通り実施。 30 名参加。	5/24	A
・「緑のか-テン」任意モニターの選定及びアンケート実施（行政） [定量 1] 5 地域から 100 人無作為選出	9/1 ~ 11/30	・実施	10/11・12 （環境フェア）	A
・「緑のか-テン」写真コンテストの募集（行政） [定量 1]	8/1 ~ 8/31	・実施	8/1 ~ 8/31	A
・環境フェアで応募者写真展示及び表彰式開催（行政・推進会議） [定量 1]	10/11・12	・環境フェアで展示。 表彰は審査基準を設け採点方式で実施	10/11・12 （環境フェア）	A
・市の管理施設等での取り組みの実施（行政） [定量 1]	夏季	・31 施設、33 箇所で実施、ゴーヤ 163 本、琉球アガオ 299 本	5/22	A
取り組みの実施（市民・事業者） ・「緑のか-テン」講座への参加（市民・市民 NW・事業者） [定量 1]	5/24	・30 名参加	5/24	A
・「緑のか-テン」写真コンテストへの参加 [定量 1]	8/1 ~ 8/31	・14 件の応募	10/12 表彰 （環境フェア）	A
・自宅や事業所での取り組みの実施 [定量 2]	夏季	・200 名の回答 29%の実施率		A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 岡本)

重点 PJ 名	: 緑化と省エネを主体とした CO2 削減に取り組む
事業名	-2 CO2 排出量を「見える化」し、生活スタイルを改善しよう
目的	CO2 の排出量を「見える化」し、必要とするエネルギーの用途や代替手段を見直し、省エネルギーを促進させる。
目標	・平成 20 年度 (2008 年度) 比 6%以上の CO2 を削減させる。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	A	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野工業会会員を対象とした事業者向けアンケートの実施 ・安曇野市商工会を訪問し組織としての環境対策を依頼 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出量の削減目標を達成できなかった ・公共施設の温室効果がス排出量の増加 施設の増加により当初の数値目標とずれが生じている 排出量を管理する体制が不十分

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	12				1	13
点数	120				2	122
					総合評価点数	9.4

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市有施設の温室効果がス排出量を管理する体制を構築する。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新市庁舎の温室効果がス排出量を毎月集計し、適宜必要な改善行動をとる。
------------------	---

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政）				
・「安曇野市版環境家計簿」募集 [定量 1]	1/22 ~	・広報あづみの、市 HP 掲載	1/22	A
・「安曇野市版環境家計簿」集計結果（行政） [定量 1]	H27.3 ~	・結果を関係者に通知 ・結果を市 HP に掲載	2/19 3/26	A
・事業者への温室効果ガス排出量アンケートの結果（行政） [定量 1]	H27.3 ~	・結果を関係者に通知 ・結果を市 HP に掲載	2/12 3/26	A
・安曇野市温室効果ガス排出量推計値（行政） [定量 1]	10/1 ~	・推計値を関係者に通知 ・推計値を市 HP に掲載	3/10 3/26	A
・安曇野市地球温暖化防止実行計画の実施結果（市公共施設対象）（行政） [定量 1]	10/1 ~	・H25 年度取組結果の市 HP への掲載	7/8	A
取り組みの実施				
・「安曇野市版環境家計簿」の実施（行政） [定量 1]	1/1 ~ 12/31	・72 名登録	1/22 ~	A
・事業者への温室効果ガス排出量アンケートの実施（行政） [定量 1]	6/1 ~ 9/30	・安曇野工業会会員実施	11/28 ~	A
・昨年実施した事業者向け環境アンケート結果を生かした啓発（取り組み未実施項目を主に）（行政） [定量 1]	6/1 ~	・商工会に訪問し依頼「環境フェア」チラシを会員に配布	7/31・ 8/29	A
・安曇野市温室効果ガス排出量推計業務の実施（行政） [定量 1]	4/1 ~ 3/31	・推計結果 665,721t-CO ₂ （平成 20 年度比 2.4%減）	4/1 ~ 3/31	A
・安曇野市地球温暖化防止実行計画の実施（市公共施設対象）（行政） [定量 1]	4/1 ~ 3/31	・平成 25 年度の公共施設の温室効果ガス排出量確認：7,352,233kg-CO ₂ （平成 20 年度比 6%増/P10 参照）	H25.4/1 ~ H26.3/31	E
取り組みの実施（市民・事業者）				
・「安曇野市版環境家計簿」への参加 [定量 1]	1/22 ~	・72 名登録	1/22 ~	A
・温室効果ガス排出量アンケートへの参加 [定量 1]	6/1 ~ 9/30	・安曇野工業会会員実施	11/28 ~	A
・自宅や事業所での取り組みの実施 [定量 1]	4/1 ~ 3/31	・環境家計簿記入用紙、アンケート等で調査	11/28 ~	A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性：良かった A ぶつうだった C 悪かった E

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 飯田)

重点 PJ 名	: 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	-1 身近に生息・生育する外来生物を調べよう
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・外来生物についての情報を広く発信し、外来生物に対する意識を高める。 ・外来生物の生息・生育状況を調査し、安曇野市に生息・生育する外来生物の実態を把握する。
目標	収集した外来生物の生息・生育情報を、地図などに整理して公表する。
担当課・係	環境課・環境政策係

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	A	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来生物の情報不足が課題 ・駆除依頼後の結果が不明 ・アレチウリマップがどのように使われるのか不明

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	8					8
点数	80					80
					総合評価点数	10

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駆除を依頼した場合は、その後の結果を確認することが必要 ・駆除のための広報時期を適期 (効果的なタイミング) に設定する必要がある <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレチウリマップを分析し、その分析結果を活用する必要がある。(例えば、重点的に駆除する場所を選定するなど) ・情報収集先の検討と情報収集
------------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 飯田)

重点 PJ 名	: 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	-2 早期外来植物対策で繁殖拡大を防ごう
目的	外来植物早期対策モデル地区を設定して、駆除活動を実施し、目標とする景観 (在来種の生息する環境) を目指す。 ・侵入初期段階の外来植物をみつけた場合、早期の対応を検討・実施する。 ・侵入初期段階での対策が効果的であることを周知する。
目標	収集した外来生物の生息・生育情報を、地図などに整理して公表する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	A	効果的だった取り組みや項目 不十分だった取り組みや項目、その要因 ・マニュアルをどのように活用するのか不明 ・研修会では、何人集まったのかが問題 ・事業者の取り組みが不明

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	12					12
点数	120					120
					総合評価点数	10

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組み・項目と修正点 ・研修会では参加人数を定量的な目標とする
	課題や新たに設定すべき目標 ・マニュアルの活用方法の検討 ・事業者の取り組みについて情報を収集する

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政） ・アルチリなどの駆除について [定量 1]	4/1～	・広報掲載	6/18	A
・アルチリなどの駆除の結果報告 [定量 1]	11/1～	・ホームページ掲載	3/9	A
取り組みの実施（行政） ・外来植物対策マニュアルの検討・作成 [定量 1]	通年	・原稿作成	3/31	A
・「プロジェクト -1 身近に生息・生育する外来生物を調べよう」で作成した生育マップをもとに駆除活動に取り組む [定量 1]	通年	・区環境部長にアルチリ駆除実施個所の地図への記載を依頼	7/3	A
・アルチリなど駆除 [定量 1]	7/6・8/3・9/7	・各区、ボランティア団体と実施	6/1～9/28	A
・研修会の実施 [定量 1]	6/15	・水辺マップ取場で開催（区長・環境部長）31人 ・黒沢川で開催（区役員他）5人 ・水辺マップ取場で開催（事業者）78人	6/15 6/20 8/2	A
・区などへの駆除の実施依頼 [定量 1]	随時	・区長、環境部長へ依頼 区長会：豊科 4/21、穂高 4/18、三郷 4/30、堀金 4/23、明科 4/17 環境部長会議：豊科 4/23、穂高 4/22、三郷 4/23、堀金 4/24、明科 4/22 ・広報で全市に協力依頼	4/11～4/30 6/18～	A
・各区にアルチリ駆除実施場所の地図への記載を依頼 [定量 1]	7/3～9/30	・駆除実行政区 53 区からの回答	7/3～9/30	A
・全市におけるアルチリ駆除実施場所マップ作成 [定量 1]	10/31～H27.2/27	・区、ボランティアなどからの報告をもとに作成	H27.2～	A
・駆除方法についての課題収集（区長会など） [定量 1]	12/1～	・83 区長宛依頼 78 区回収（内容別紙）	1/23～2/13	A
取り組みの実施（市民・事業者） ・アルチリなど駆除の実施 [定量 1]	7/～9/	・のべ 20 日間 55 行政区（6,071 人） 2 ボランティア団体（97 人） 【市職員・三角島プロジェクト】 1 事業所（78 人） 計 6,246 人	6/1～9/28	A
・アルチリなど駆除の課題報告 [定量 1]	随時	・区長回答 78 区回答	1/23～2/13	A

定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E

定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 飯田)

重点 PJ 名	: 安曇野にふさわしい生態系を守る
事業名	-3 安曇野の自然まるわかり観察会
目的	安曇野の豊かな自然環境を活かし、様々な環境を対象とした自然観察会や学習講座を行うことによりその重要性を認識し、地元の自然環境を大切にする意識を高める。
目標	年間 3 回 (春・夏・秋) 以上の自然観察会または学習講座を開催する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	A	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマ出没時の対応は、様々考え方はあるが、要検討 ・雨天中止の対応を考えておくべき

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	6		1			7
点数	60		6			66
					総合評価点数	9.4

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察会の趣旨から広報の方向性を検討する。 ・悪天候時の対応を準備する。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然好きの子供を増やせるプログラムの開発
------------------	--

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政） ・「安曇野の自然まるわかり観察会」（以下「観察会」）参加者募集（小学校への案内） [定量 1]	実施 1ヶ月前	第 1 回 ・市内小学校 4 年～6 年に配布 ・広報掲載 ・安曇野エコラフ.net に掲載 第 2 回 ・同上 ・同上 ・同上 第 3 回 ・同上 ・同上 ・同上	5/29 5/21 5/21 7/16 7/23 7/23 熊出没のため配布せず 10/22 10/22	A
・「観察会」結果広報 [定量 1]	実施 1ヶ月後	・安曇野エコラフ.net に掲載	7/30	A
取り組みの実施（行政・推進会議） 「観察会」の実施と記録作成 ・身近な里山で春の生きもの...黒沢洞合公園 [定量 1]	5/ 月上旬	・記録作成（6/21 実施分） ・黒沢洞合自然公園で実施	7/14 6/21	A
・湧水地帯の豊かな水辺...三角島周辺 [定量 1]	8/ 月上旬	・自然観察交流センター「せせらぎ」で実施	8/23	A
・人里の農地...穂高牧周辺 [定量 1]	10/ 下旬	・穂高地域牧地区	4/4(雨天中止)	C
・「安曇野の自然を語る ～生きもの最前線～」 [定量 1]	2/21	・豊科交流学習センターで実施	2/21	A
取り組みの実施（市民・事業者） ・「安曇野の自然まるわかり観察会」への参加 [定量 1]	随時	第 1 回：15 名参加 第 2 回：22 名参加 第 3 回：雨天中止 ○第 4 回：40 名参加	6/21 8/23 中止 2/21	A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 深澤)

重点 PJ 名	: 身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
事業名	-1 安曇野の水辺体験
目的	安曇野市の水辺に慣れ親しむことにより、水辺環境の大切さを身近なものとして実感し、保全に繋げる。
目標	・年 3 回の親水イベントを実施する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	A	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国営公園、三角島との連携は良かった。 ・ 計画に沿って実施され内容も良かった。 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全面や時期的な点に制約された。

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	6					6
点数	60					60
					総合評価点数	10

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施が果たした役割を評価するのは困難。着実な事業実施が大きな成果につながるのではないか。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育といった側面での評価を設けてはどうか。 ・ 年間計画の事前周知 ・ 地域性のある事業の取り組み。 ・ 市民ネットワークとの連携が望ましい。 ・ 数量的な評価と成果の評価を合算した評価が必要である。
------------------	--

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政） ・「親水イベント」参加者募集と結果（小学校への案内）[定量 1]	実施 1ヶ月前	・ 広報掲載 ・ 市内小学校児童に配布 ・ 安曇野ICプラザ.net に掲載	5/21・9/17 5/21・7/23 ・ 9/26 5/21・7/3 ・ 9/17	A
取り組みの実施（行政） 国営アルプスあづみの公園・県営烏川渓谷緑地 [定量 1] ・ 国営アルプスあづみの公園「水の路トレイル」での「水路」体験 ・ 県営烏川渓谷緑地での河川内水生昆虫採取及び剥製展示物見学	6/ 月上旬	・ 分水のなごり、・ 払い子、須砂渡頭首工などの見学 ・ 顕微鏡による水中生物の観察、剥製展示物の見学	6/7	A
地下水について [定量 1] ・ 「地下水シンポジウム」でのイベント実施	10/ 月上旬	・ 利き水コーナー ・ 地下水関連資料のパネル展示	10/12 (環境フェア)	A
○環境フェアでの「水に関する遊具」の紹介（場所：堀金中央公園）[定量 1]	10/12	・ 竹で作る水鉄砲、笹船など	10/12 (環境フェア)	A
三角島 ・ 三角島ふるさとの森プロジェクトへの協力 [定量 1]	6 月～9 月	・ アルチリ駆除・草刈 ・ 自然観察会（雨天中止） ・ スカッチ大会	7/6・8/3・9/6 8/9 9/7	A
取り組みの実施（市民・事業者） ・ 「親水イベント」への参加 [定量 1]	随時	・ 水辺観察会：20 名参加 ・ 三角島アルチリ駆除：7 名参加 ・ 三角島アルチリ駆除：7 名参加 ・ 三角島アルチリ駆除：12 名参加 ・ 三角島スカッチ大会：45 名参加（36 名申込） ・ 地下水シンポジウム：200 名参加 ・ 「水に関する遊具」の紹介：85 名参加	6/7 7/6 8/3 9/6 9/7 10/12 10/12	A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 (事務局 : 深澤)

重点 PJ 名	: 身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
事業名	-2 歩いて楽しいまちづくり
目的	・市民が市内を歩いて身の回りの「いいところ」を知り、そのよさに共感する人々と交流し、楽しみながら守り育て、コミュニティや地域の活性化等を促す。
目標	・「いいところ」マップを作成する。 ・モデル地区で地区の方々と年間 1 回以上の取り組みを開催する。 ・プロジェクト中の STEP1「我が地区流」の活動案を作成する。
担当課・係	環境課 環境政策係

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	【評価】	総合コメント
	B	<p>効果的だった取り組みや項目 イベントが地域が地域を考えるきっかけとなっている。</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因 ・市民への情報提供が十分ではなかった。</p>

平成 26 年度目標評価集計

	A 評価 (10 点)	B 評価 (8 点)	C 評価 (6 点)	D 評価 (4 点)	E 評価 (2 点)	計
取組数	4		3			7
点数	40		18			58
					総合評価点数	8.3

総合評価点数 = 個別目標評価点合計 / 目標数 (評価項目数)

総合評価 A (総合評価点数) 9.0 ~ 10 点、総合評価 B 7.0 ~ 8.9 点、

総合評価 C 5.0 ~ 6.9 点、総合評価 D 3.0 ~ 4.9 点、総合評価 E 0 ~ 2.9 点

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加しやすいイベントの実施。 ・区と市民ネットワークとの連携が不十分。 ・事業と地元地域との連携が必要。 ・数量的な評価と成果の評価を合算した評価が必要である。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの目標と目標達成に向けた計画が必要である。 ・区と市民ネットワークとの連携を目標としたらどうか。 ・生活の安全確保、環境保全整備といった課題点も含めたマップの作成が必要。
------------------	---

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
取り組みの広報（行政） ・ ぽん地区での取り組みの紹介 [定性 1]	随時	実施予定	3/10～	C
・ ぽん地区での取り組みへの参加募集 [定性 1]	随時	明科地域 潮・木戸・上生野区長の参加	8/26～	C
・ ホームページを活用した広報 [定性 1]	随時	・ ぽん.net に掲載	7/16	C
取り組みの実施（行政） ・ ワークショップ等により地元との調整をはかり、今後の活動計画を検討する [定量 1] ア．廃線敷と周辺集落の道を活用した里山めぐりコースづくり イ 廃線敷沿線の竹の森づくり ウ．岩州公園の活用	随時	・ 潮沢区（明科地域）と調整 ・ 現地踏査 ・ ぽんコース検討 民地を通るため不可 ・ 現地踏査（事務局・区長） ・ 打ち合わせ会議 ・ 現地踏査 ・ 市への提案書検討 ・ 将来計画の検討及び市への提案書作成 ・ 現地踏査	4/25・6/13 7/18・ ・12/24 4/25 7/18 8/26 10/15 11/26 10/24	A
取り組みの実施（市民・事業者） ・ 地元地区主体の事業に対して内容に応じて必要なサポートを行う [定量 1]	随時	・ 現地踏査【ぽんコース・竹の森】（10名参加）	4/25・ 7/18	A
・ 市民団体・・・「楽しむ」から「受け継ぐ」過程の専門的分野での協力 [定量 1]	随時	・ 打ち合わせ会議（12名参加）	8/26	A
・ 市民団体と地元地区が協働して取り組めるような仕組みづくり（例：活動フィールドの情報提供等） [定量 1]	随時	・ 現地踏査（竹の森）（15名参加） ・ 現地踏査（岩州公園）（14名参加） ・ 市への提案書検討（12名参加）	10/15 10/24 11/26	A

定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C

定量-2：実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E

定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

- 計画推進プロジェクトの結果 -

プロジェクトの基本事項

重点PJ名	森づくりを推進する
事業名	-1 安曇野市里山再生計画策定事業
目的	すべての民有林を「里山」と位置づけ、健全な里山の再生を目指す。
目標	H26 は計画策定 H27 以降は「安曇野市里山再生計画」策定時に目標値設定の予定
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
分科会の開催 (計画の具体化の検討) [定量 2]	5 回程度	・ 合同 WG 開 (基本施策の具体的検討) ・ 個別 WG 開催 (個別 WG による基本施策 の具体的検討)	7/14 8/ 5 8/18 11/6 11/21 12/19	A
計画策定委員会の開催 (計画の内容を協議) [定量 2]	3 回程度	平成 26 年度 ・ 第 1 回委員会開催 (策定までの論点整理) ・ 第 2 回委員会開催 (施策、進行管理の確定) ・ 第 3 回委員会開催 (計画案の仮承認) ・ 第 4 回委員会開催 (計画案の承認) ・ 第 5 回委員会開催 (推進体制の検討)	6/17 9/ 2 11/26 1/28 3/19	A
計画作成 [定量 1]	年度内	・ 検討結果の報告 ・ 計画策定 ・ 計画書印刷 本 編 500 部 概要版 40,000 部	2/18 2/20 3/末	A

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 安曇野市里山再生計画策定事業

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <p>・計画が策定されたので、次年度からはその内容を実現して欲しい。</p>
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	森づくりを推進する
事業名	-2 松くい虫被害対策事業
目的	松くい虫による被害木を最小限にするため、予防と防除対策及び松の保護育成を実施し、森林の多面的機能の発揮を促す。
目標	被害木伐倒駆除 5,000 m ³
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
被害木伐倒駆除事業 (補助事業) [定量 2]	3,000 m ³	伐倒駆除材積 6,629 m ³	通年	A
被害木伐倒駆除事業 (市単事業) [定量 2]	2,000 m ³	伐倒駆除材積 3,560 m ³	通年	A

評価

- ・ 定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2 : 実施数量/目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 松くい虫被害対策事業

総合コメント	
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的では「予防と防除対策」も記載されているが、伐倒駆除以外の対策はどのような取組をしていたのか見えない。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業規模として、どのくらい予算がかかっているのか資料に記載して欲しい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伐倒駆除以外の対策についても目標として掲げるなど、資料に記載して欲しい。
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点PJ名	森づくりを推進する
事業名	-3 森林活用事業
目的	多くの人々が様々な形で森林にふれあう機会を設け、森林の重要性を普及させる。
目標	森林（もり）の里親促進制度・・・ 2 団体と契約 みどりの少年団活動・・・小学校 6 校、中学校 2 校の活動 学有林活動・・・小学校 6 校、中学校 2 校の活動
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
森林（もり）の里親促進事業 （契約企業と協働で森林整備を行う） [定量 2]	2 団体と契約	・ GE 富士電機メーター(株) （支援金 60 万円、5 年契約社員による森林整備） ・ 森倶楽部 21・ユープながの （市は協力者として活動支援） 実施率 100%	8/22 9/16	A
みどりの少年団活動 （交流集会への参加、体験学習等） [定量 2]	8 校	・ 豊科南小 約 680 名 校内林の枝打ち、剪定などの体験学習 校内樹林やピオトープの継続観察・写真記録 ・ 穂高南小 567 名 校内腐葉土づくり・学校の花壇づくり ・ 穂高北小 135 名 学校や地域の花壇づくり 天産林との触れ合い自然体験学習 ・ 堀金小 608 名 花壇づくり 花や植物の栽培による体験学習 ・ 明北小 3～6 年生 78 名 シイタケのコマ打ち作業体験学習 シイタケのコマ打ち作業・キノコの生態についての学習会	通年 通年 通年 通年 5/2	B

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
みどりの少年団活動 (交流集会への参加、体験学習等) [定量2]	8校	<ul style="list-style-type: none"> ・穂高西中 3年生 150名 学有林活動ヒノキ間伐体験学習 間伐材を利用した木工製品づくり 3年生 150名 間伐ヒノキを利用しマイ箸・なべ敷き・コースター等を製作 ・交流集会への参加 (7校 豊科南小、穂高南小、穂高北小、堀金小、明北小、穂高西中、堀金中生徒児童 53名 引率 8名 穂高西小不参加) 堀金小学校活動発表 森林学習 箸づくり 森林クイズラリー等実施 	5/29 10/24 8/1	
学有林活動 (間伐等の森林整備体験) [定量2]	6校	<ul style="list-style-type: none"> ・島内小学校実施(隔年) 4年生 109名 樹木刈払い作業(除伐等) 松くい虫被害木伐倒作業の見学 ・明科中学校実施 1年生 72名 樹木刈払い作業(除伐等) 松くい虫被害木伐倒作業 ・岡田小学校実施 6年生 70名 高木伐採作業 ヒノキの間伐作業 ・豊科南中学校実施 (悪天候により中止) ・豊科北中学校不実施 ・松島中学校不実施(隔年) 	5/2 5/29 9/30 - - -	B

評価

- ・定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -3 森林活用事業

総合コメント	
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の里親促進事業の2団体はすでに決まっていた団体であり、新規に増やすという観点も欲しかった。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定した学校の不参加の要因を分析して欲しい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の里親促進事業では、新規団体・事業者との契約を目指して欲しい。 ・緑の少年団活動は、全市的に取組を広げて欲しい。
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	森づくりを推進する
事業名	-4 ニホンジカ対策
目的	農林業被害の軽減、自然環境への影響の軽減、個体数の削減・地域個体群の安定的な維持。
目標	捕獲目標 360 頭 (内訳：個体数調整 80 頭、狩猟 280 頭)
担当課・係	耕地林務課 林務担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
有害獣捕獲 (個体数調整) ・ 猟期以外を市猟友会へ委託 [定量 2]	80 頭	有害獣捕獲 (個体数調整) 実施 85 頭 (実施率 100%)	4 月 1 日 ~ 11 月 14 日 2 月 16 日 ~ 3 月 31 日	A
狩猟による捕獲 (11/15 ~ 翌年 2/15) [定量 2]	280 頭	実施 58 頭	11 月 15 日 ~ 2 月 15 日	D

評価

- ・ 定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2：実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -4 ニホンジカ対策

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟による捕獲頭数が3月末時点では不明。県の集計後に、推進会議に報告して欲しい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p>
----------------	--

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-1 人・農地プランの実践 (作成)
目的	農地の担い手等を明確にして農地の計画的な集積を図る。
目標	認定農業者の確保・育成・・・290 経営体 集落営農組織の設立支援・・・30 組織 担い手への農地集積・・・53.0%
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
各プランの実践 (個々の経営体の意向に沿った農地の流動化等) [定量 1 及び定量 2]	通年	・農地中間管理事業業務 ・プランの見直し (目標に対する実績見込) 2 6 3 経営体 2 5 組織 5 3 . 4 %	通年 (7月以降) 3月に5回	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 人・農地プランの実践（作成）

総合評価 (Check)	総合コメント
	○効果的だった取り組みや項目 ○不十分だった取り組みや項目、その要因

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組み・項目と修正点 課題や新たに設定すべき目標 ・六次産業化が進んでいるので、その件について分かるような内容をどこかに記載して欲しい。
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-2 就農支援
目的	国や市独自の給付金制度等により、次世代の農業の担い手や後継者づくりを進める。
目標	新規就農者の確保・育成・・・10 人/年
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
就農支援室(市再生協)による相談窓口業務の実施 [定量 1]	通年	市農政課の窓口対応 25 件	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
青年就農給付金事業 (国からの就農支援金 @150 万円/年・最長 5 年) [定量 1]	通年	交付対象者 15 人	通年	
安曇野市親元就農促進事業 (機械等取得補助金 3/10 以内、 就農支援金@20 万円/年・最長 5 年) [定量 1]	通年	・機械等取得補助金 交付決定件数 7 件 交付決定額 4,894 千円 ・就農支援金 交付対象者 29 人	通年	
[定量 2]		新規就農者の確保・育成 ...15 人		

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 就農支援

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>○効果的だった取り組みや項目</p> <p>○不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農支援室相談窓口での広報PR活動について内容を知りたい <p>課題や新たに設定すべき目標</p>
----------------	--

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-3 耕作放棄地の解消支援
目的	耕作放棄地の再生作業に対する補助事業の活用を推進し、新たな発生を防ぐ。
目標	耕作放棄地全体面積・・・51.6ha
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
・耕作放棄地再生利用対策の推進【国】 (農作物の生産再開に向けた条件整備に対する補助金の交付) [定量 1]	通年	交付対象件数 12 件 再生利用面積 51,900 m ²	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
・荒廃農地解消就農者支援制度の推進【市】 (一定規模の解消を行う認定農業者への支援金) (100 万円を 5 年分割交付) [定量 1]	通年	交付対象者 6 人 解消決定面積 23,903 m ²	通年	
・耕作放棄地解消作業機貸出事業【市再生協】 (歩行型草刈機の貸出等) [定量 1]	通年	貸出件数 60 件 活用面積 89,945 m ²	通年	
・耕作放棄地発生防止・再生事業【市再生協】 (耕作条件不利農地や耕作放棄地に適した作物の栽培検証) [定量 1]	通年	現在ブルーベリーを検証中。	通年	
・市、JA 共同による耕作放棄地解消に向けた取り組みに対する独自の補助制度の確立 [定量 1]	5 月末まで	耕作放棄地解消に取り組む、組織への補助。(個人で取り組む補助は、継続設計中)		
[定量 2]		耕作放棄地全体面積... 61.6ha		

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% ~~60~~ 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -3 耕作放棄地の解消支援

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>○効果的だった取り組みや項目</p> <p>○不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の 51.6ha は、現時点の耕作放棄地面積なのか、目標とする面積なのか分かるようにしてほしい。 ・文章中の文言で、「耕作放棄地」と「荒廃農地」が混在する。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p>
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-4 中山間地域等直接支払
目的	農業生産条件が不利な状況にある地域における、農地・農村機能の維持と生産性の継続。
目標	農作物の作付率・・・88.0%
担当課・係	農政課集落支援担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
・中山間地域等直接支払交付金 (15 集落・約 100ha の活動に対する国・県・市からの交付金) [定量 1]	通年	交付確定集落 15 集落 交付確定額 16,111,586 円 交付対象面積 100.3ha	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
・安曇野市中山間地域農業直接支払事業 (上記の対象とならない 2 集落・約 10ha の活動に対する市単交付金) [定量 1]	通年	交付確定集落 2 集落 交付確定額 1,020,632 円 交付対象面積 9.7ha	通年	
[定量 2]		農作物の作付率... 82%		

評価

- ・ 定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2 : 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -4 中山間地域等直接支払

	総合コメント
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定に対し、ほぼ実施されている。 <p>○不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定に対してほぼ実施されているが、88%の目標に対して、82%に留まった理由を知りたい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結果として交付集落数や交付金額等の数字が掲載されているが、Plan の中にその目標の数字が無い。目標値を表記して欲しい。
----------------	--

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る
事業名	-5 多目的機能支払交付金事業 (旧 農地・水保全管理支払交付金事業)
目的	農地の多面的機能の維持等を図るため、農業者が共同して取り組む地域活動や、農業用水路・農道等の維持補修への活動に支援する。
目標	活動組織の数・・・42 組織
担当課・係	耕地林務課 耕地担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
遊休荒廃地を未然に防ぐため、多面的機能（農業用水路・農道の草刈り、泥上げ、砂利補充等）を支える組織の拡充を図る。 【現在 40 組織】 [定量 2]	42 組織 (目標)	本年度において、穂高と堀金地域で3団体が組織化され、施設の維持補修作業や耕作放棄の解消活動が行われ安曇野の風景を守る取り組みが図られている。 【最終 43 組織】	12/20	A

評価

- ・ 定量-1：実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2：実施数量/目標数量×100=90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E
- ・ 定性：良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -5 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <p>課題や新たに設定すべき目標</p>
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	-1 直売加工施設運営事業
目的	直売所の運営による地域農業の活性化。
目標	直売所での売り上げの増加・・・13 億円 参加農家の確保・・・540 戸
担当課・係	農政課マーケティング係

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
現在の直売所売上げは、増加傾向ではないが目標の 13 億円に近づくように図る。 [定量 2]	13 億円	12 億 8504 万円	通年	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
参加農家の確保と開拓を実施する。 [定量 2]	540 戸	435 戸	通年	

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -1 直売加工施設運営事業

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>○効果的だった取り組みや項目</p> <p>○不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加農家数が目標 540 戸に対して、435 戸に留まった理由を知りたい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p>
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	-2 地産地消の推進 (その 1)
目的	学校給食における、地元食材 (県内産) の使用率向上。
目標	使用率 100% を維持・・・100% 域産豚肉の使用率の増加・・・8%
担当課・係	農政課マーケティング係

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
お米は、現在の使用率を維持する他に、学校給食等での使用頻度を増やす。 [定量 1]	通年	現在、学校教育課と一緒にになってお米の使用頻度を増へ繋げるように取り組んでいる。また、今年度は 6 月に 1 回テスト的に安曇野産米「風さやか」を学校給食へ入れ、H27.1 より月 1 回、学校給食に供給した。 【H27.1~3 約 2 t】	安曇野の日 毎月 (19 日) 「風さやか」試験的導入日 6/19 日	市農業農村振興計画推進委員会にて点検・評価
地域産豚肉の使用及び増加へ繋がるようにはかる。 [定量 1]		豚肉は長野県産 100% となっているが、安曇野産については調査すると約 3% である。 県内産の豚肉に比べて安曇野産豚肉が 100 g 当たり 10 円高いのが伸びない原因である。	通年	

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価 -2 地産地消の推進（その1）

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	○改善すべき取り組み・項目と修正点
	課題や新たに設定すべき目標

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項 -2

重点 PJ 名	地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
事業名	-2 地産地消の推進 (その 2)
目的	学校給食における、地元食材 (県内産) の使用率向上。
目標	「安曇野の日」【月 1 回】及び「ご飯の日」【年 30 回】の実施回数・・・42 回/年
担当課・係	学校教育課学校給食担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
安曇野の食材を多く使う「安曇野の日」を月 1 回実施。また、週 3 回の定期的な米飯給食の実施日と、麺類・パンの給食日から米飯給食に 30 回を振替えて米の消費を増やす。 [定量 2]	通年	安曇野の日は予定通り月 1 回実施している。 昨年は従来週 3 日の米飯給食の日に加えて、年 12 回のごはん給食を増やし、さらに今年度は年間 18 回を増やして実施し、一昨年度比で、30 回を増やすことができた。	安曇野の日 (毎月 19 日が基本) 週 約 4 日のごはん給食の実施	A

評価

- ・ 定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2 : 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	総合コメント
	効果的だった取り組みや項目 不十分だった取り組みや項目、その要因

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	改善すべき取り組み・項目と修正点 課題や新たに設定すべき目標 ・できれば米以外の地元食材も利用して欲しい。
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 豊かな地下水を保全する
事業名	-1 水資源保全対策事業
目的	安曇野の水資源の保全、涵養、適正利用。
目標	転作田湛水面積・・・25ha
担当課・係	環境課環境保全係

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
地下水保全条例の運用 ・新規地下水採取者届出 ・地下水採取量年次報告 [定量 1]	通年 5 月末	採取者届出 8 件 事前協議 3 件	4 月～	A
地下水モニタリング (地下水・湧水・わさび田の水位 測定、地下水の水質検査) [定量 1]	通年	水位測定 地下水 8ヶ所 湧水 2ヶ所 わさび田 2ヶ所 水質検査 井戸 28ヶ所	4 月～	A
地下水資源強化 ・転作田湛水 25h [定量 2]	7～ 8 月	21.65ha(116ほ場) で実施。(18農家) 推計涵養量 約39万t	7～9月	A
水環境基本計画策定検討委員会の 設立 [定量 1]	6 月	委員会設置要綱の整備 第 1 回策定委員会の開催 第 2 回策定委員会の開催 第 3 回策定委員会の開催	6 月 8 月 8 日 11 月 13 日 3 月 13 日	A

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90～100% A 60～89% B 30～59% C 10～29% D 0～9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 強化について、涵養量 600 万 t に対し、39 万 t という数字は少ない。他の方法についても考えるべきでは無いか。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> 条例の運用に関して、届け出の協議の結果どのような対応したのか、どのように保全ができたのか分かるような資料がほしい。 モニタリングでは、地下水位の測定をしているが、その結果が欲しい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 強化については、涵養量 600 万 t に対する 39 万 t という数字は少ない。ひとつの対応として考えるが、他の方法についても考えるべきでは無いか。
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 臭気規制を導入する
事業名	-1 臭気規制の導入
目的	悪臭防止法に基づく臭気規制の導入。
目標	臭気規制地域及び規制基準の作成
担当課・係	環境課環境保全係

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check	
内容	予定	結果	実施日	点検・評価	
臭気規制地域及び規制基準の作成	臭気規制案の作成 [定量 1]	4 ~ 5 月	臭気規制事務局案の作成	4 ~ 6 月	A
	環境審議会への諮問、答申 [定量 1]	6 ~ 8 月	環境審議会への諮問	7/17	
			審議会での審議 (3 回)	8/12・25 9/24	
	環境審議会からの答申	10/20			
規制基準の決定 [定量 1]	9 ~ 10 月	パブリックコメントの実施	11/27 ~ 12/28		
説明会の開催 [定量 1]	1 ~ 2 月	市民・事業者説明会を市内 4 会場で実施。	12/12 明科・穂高 12/13 三郷・豊科		
議会への付議、公示 (中間報告) [定量 1]	3 月 (12 月)	議会全員協議会	8/26 11/20	A	
		庁議	6/23 10/15		
		公示	4/1		

評価

- ・ 定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2 : 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	総合コメント
	効果的だった取り組みや項目

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半の4つについては、あくまでも臭気規制の過程を示している。書き方は、トータルでA評価で良かったのでは無いか。(担当修正済) <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の話として、事後評価のチェックシートが欲しいとの意見が出た。別紙のようなものでほしい。
----------------	---

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: ごみを減らそう
事業名	-1 ごみ減量化再利用対策事業 (家庭系)
目的	家庭系一般廃棄物の減量・資源化。
目標	家庭系ごみ排出量 (市民 1 人 1 日当たり) … 517 g リサイクル率 … 30.1%
担当課・係	廃棄物対策課廃棄物対策担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
ごみの適正分別指導・啓発 [定量 1]	通年	5 地域毎の環境部長会議を開催 環境部長視察研修会 (資源化) を開催 広報紙による、ごみ減量・資源化の啓発 ごみカレンダー配布 資源物・ごみ 出し方の手引き (改訂版) の作成・配布	4 月 11 月 通年 2~3 月 2 月	A
生ごみ処理機器等購入費補助金 交付事業 [定量 2]	通年	交付決定件数 134 件 交付決定額 2,524 千円 (執行率 87%)	通年	B
生ごみ処理機器等導入者アンケートの実施 [定量 1]	5 月 ~ 7 月	配布 179 件、回収 122 件 (回収率 68.2%) 使用して、ごみが減ったと感じている人は 122 件の内 104 件いた。 11 月広報紙へ P R 記事を掲載した。	8 ~ 9 月	A
緑のリサイクル事業 [定量 1]	4 月 ~ 11 月	5 か所に排出置き場を設け、チップ化処理と市民への提供を行った。 処理期間: 4 月 ~ 12 月 処理量: 100,950 kg	作業日数 延べ 67 日	A

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
使用済み小型家電回収事業 [定量 1]	通年	ボックス回収を 5 支所で継続するほか、4 月から、豊科・穂高リサイクルセンターでの全品目回収を開始した。 回収量： 37,080 kg 売却額： 499,478 円 売却先である認定事業者が企画した「システム構築実証事業」に参加し、市内事業所の協力の下に回収ボックスを設置し回収事業を P R した。	通年 2~3月	A
段ボールコンポスト講習会 [定量 1]	7 月 10 月 2 月	未実施 S B C テレビ特番で市内の段ボールコンポストの取り組みを紹介した。	放送日 12/27	E
[定量 2]	家庭系 ごみ排出量 517g リサイクル率 30.1%	家庭系ごみ排出量 (市民 1 人 1 日当たり) ...498g リサイクル率 ...22.3%		A B

評価

- ・ 定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2 : 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合コメント	
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの適正分別指導・啓発 「資源物・ごみ 出し方の手引き」の改訂版を作成し全戸配布した。改定に合わせ、収集内容なども見直しを行った。 ・生ごみ処理機アンケートの実施 導入者の生の声を聞くことができ、ごみ減量への効果も確認できたことで自信を持って施策推進ができる根拠になった。 ・使用済み小型家電回収事業 豊科・穂高リサイクルセンターでの全品目回収を開始したことで、従来粗大ごみとして有料処理であったものが資源物となり、市民の負担軽減につながった。
	<p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールコンポスト講習会 単独の講習会と環境学習会での実施を想定していたが、他の企画に振り替える等で実施しなかった。段ボールコンポストを維持することが難しい方もあり、広く普及はできていない。管理の楽な、生ごみ処理機の導入を推進している。 ・リサイクル率の低下 重量のかさむ古紙類を中心に市の収集量が減っているため、見かけの数値は大きく減じている。民間の回収に振り替わっていることが主な要因と分析している。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済み小型家電回収事業 豊科・穂高リサイクルセンターに加え、明科ストックヤードでも全品目回収を開始するほか、生涯学習センターやスーパーマーケットにも回収ボックスを設置し、回収と啓発を図っていく。 ・小型家電回収については認識していない市民は多いと思われますので市民の目のつきやすい場所で且つ休日にも利用しやすいように啓発、回収は進めて頂きたいと思います。(委員)
	<p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量に向けた具体的な施策 資源化を含め、ごみ減量化の取り組みは一定の水準に達しており、新たな施策具体化が難しい面がある。 ・リサイクル率の低下 指標としては分かり易いので、目標としては設定していきたいが、排出環境が大きく変わっている中で適正値の設定が難しい。 ・今後、排出環境の変化(民間の取り扱い量等)を含めた安曇野市全体のリサイクル率についての検討を進めていく必要がある。(委員) ・民間の回収を把握して安曇野市としてのリサイクル率の向上を目指す。(委員)

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: ごみを減らそう
事業名	-2 ごみ減量化再利用対策事業 (事業系)
目的	事業系一般廃棄物の減量・資源化。
目標	事業系可燃ごみ排出量・・・8,251t
担当課・係	廃棄物対策課廃棄物対策担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導 [定量 1]	通年	公文書の廃棄における分別資源化の促進・指導 (図書館・学校の蔵書廃棄における資源売却指導) 焼却に代わる処分方法として、シュレッダー処理し資源化 (売却) する方式を試験的に実施した。 処分量: 紙シュレッダー 6,141 kg 処理費: 185,672 円 (処理単価: 30.24 円/kg) 売却額: 紙シュレッダー、雑紙、段ボール、鉄、計 9,681 kg 44,132 円	通年 7月 ~8月	A
事業系ごみの展開検査と分別収集指導 [定量 1]	通年	穂高クリーンセンターにおける展開検査に構成市町村として参加(2回実施)	5/14 6/23	A
事業者への減量化と適正処理の協力要請 [定量 1]	通年	収集業者経由で、分別・資源化の促進資料を配布	通年	A
収集運搬業者に向けた研修会 [定量 1]	7月	収集運搬委託業者の業務打合せ会議を 2 回開催し、事業者向けの啓発を依頼した。 許可業者向けの研修会は実施しなかった。	11/19 3/20	A
事業系可燃ごみ排出量 [定量 2]	8,251t	事業系可燃ゴミ排出量...10,400t		B

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

	総合コメント
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導 公文書廃棄における分別資源化の促進策として、蔵書の廃棄時に資源物としての売却を指導した。 市民生活部では、個人情報を含む文書(国保レセプト票、住民異動届等)を焼却せずシュレッダー処理し、紙シュレッダーとして売却する方式を実施し、6,141kgの焼却を抑制した。 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者への減量化と適正処理の協力要請 収集業者経由で従来の資料配布をしたのみで、十分とは言えない。 ・市として、直接事業者へ現状と目標の通知及び協力要請が必要と思われます。(委員) ・収集運搬業者に向けた研修会 収集運搬委託業者以外の許可業者を対象とした研修会の開催ができなかった

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者への減量化と適正処理の協力要請 適正処理に向けた新たな資料を作成し、協力要請をしていく。 ・収集運搬業者に向けた研修会 穂高広域施設組合と共催で開催できるように調整したい。 <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市有施設のごみ排出、資源化を検証し改善指導 本庁舎に集約され、支所等の改築も進められる中、整理廃棄される公文書が増加することが見込まれる。この資源化には人手と経費もかかるため、計画的な整理対応が必要となる。 ・並行して資料の紙媒体から電子媒体への切り替えを計画的に進めていく必要がある。(委員) 各種の資源化方法を提示し実践することで、少ない負担で資源化率を向上させたい。 資源化を推進するとともに発生の抑制策(記録媒体の変更等)を検討推進していく。(委員) 新庁舎への移転時に排出されるゴミで事業系の排出量は増えると見込まれますが目標値の見直しを行う必要があるか、新庁舎移転分の排出量は把握するも目標値から除いて評価するか等の検討する必要があるのでは。(委員)
----------------	--

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点PJ名	: 環境マネジメントシステムを導入する
事業名	-1 環境マネジメントシステムの構築と運用
目的	安曇野市がその事業実施の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、達成に向けて取り組む。
目標	導入システムの決定
担当課・係	財産管理課庁舎管理係

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
庁内調整会議での検討 (財産管理課・環境課・各支所など) [定量 1]	8月	環境課と所管部署の経過確認および今後の進め方について協議。	9/11	A
導入システムの決定・契約 (ISO・エコアクション 21・KES などの審査機関) [定量 1]	12月	審査機関からシステム内容等の聞き取り実施。	6月~7月	A
導入日程の確認 (新本庁舎開庁後に向けた調整など) [定量 1]	3月	環境マネジメントシステム(エコアクション21)導入決定	1/13	A

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合コメント	
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <p>平成26年7月24日開催された、長野県（長野県産業環境保全協会）主催のセミナーに参加し、環境マネジメントシステムの事例発表により取り組みの足がかりがつかめた</p>
	<p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <p>環境マネジメントシステムの導入に当たりトップダウンの意思決定の確認時期が遅延した。（平成26年度の大規模な組織改編に伴い、事務連携が構築されておらずその改善に時間を要した。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション21の認証取得に向けて詳細な実行計画を立て推進して下さい（委員）

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <p>環境マネジメントシステムの取組みが初年度となることから、まず市職員の環境に対する意識の再確認が必要となる。そのためのきめ細やかな勉強会の開催をする。</p> <p>課題や新たに設定すべき目標</p> <p>環境マネジメントシステムがエコアクション21と決定され、安曇野市役所としては、かつて無い大規模な新庁舎が完成し、今まで各施設で対応していた環境対策を大幅に改善しなければならないことから職員間の戸惑いがあるかと思われる。</p> <p>新庁舎での新たなスタートであることから、勉強会を通じ早期に意思統一のとれた目標設定を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～早期の意志統一のとれた目標設定～」となっていますが、移動してすぐ、意識の新鮮なうちに所員の意識付けをしてください。（委員）
----------------	--

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-1 住宅用太陽エネルギー導入システムへの補助金交付事業
目的	自然エネルギーの活用による自然環境の保全。
目標	住宅用太陽光発電システム設置補助事業・・・補助金額 3,900 万円 住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業・・・補助金額 100 万円
担当課・係	環境課環境政策係

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
住宅用太陽光発電システム設置補助事業 (1 キロワット当たり 3 万円の補助金交付。4 キロワットを限度とする。) 予算額 3,900 万円 [定量 2]	通年	交付決定件数 273 件 交付決定額 31,468 千円 (3 月補正 4,639 千円減額 予算執行率 95%) 本年度設置分の延べ推計年間発電量: 1,329,040kwh (約 670 t -CO ₂ の削減) ((一社)太陽光発電協会 HP http://www.jpea.gr.jp/knowledge/whynow/index.html より)	通年	A
住宅用太陽熱高度利用システム設置に対する補助金交付事業 (システム設置費経費の 1/5 の補助金交付。限度額 4 万円。) 予算額 100 万円 [定量 2]	通年	交付決定件数 6 件 交付決定額 240 千円 (3 月補正 680 千円減額 予算執行率 75%) 本年度設置分の延べ年間有効集熱量: 118,476MJ (試算条件: 年間有効集熱量: 年間傾斜面日射量 1,300,000kcal/ m ² (5,442MJ/ m ²), 集熱効率 40%、燃焼効率: 80%、1kcal = 4.18605kJ その他、(社)ソーラーシステム振興協会データブックによる (社)ソーラーシステム HP http://www.sdda.or.jp/energy/merit.html より)	通年	B

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A ~~70~~~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

	総合コメント
総合評価 (Check)	<p>効果的だった取り組みや項目 年2回(4月23日、1月7日発行分)補助制度を周知する記事を市広報誌へ掲載した。</p> <p>不十分だった取り組みや項目、その要因 住宅用太陽光発電システム設置補助事業は申請件数が例年より減少した。要因としては、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」における固定買取価格の低下、平成26年度において国の補助制度が廃止されたこと、システム需要の頭打ち等が考えられる。 ・太陽光発電、太陽熱高度利用システムの予算執行での評価だけではなく、2つのシステムを導入した事によるCO2削減はどのくらいあったのか?効果の見える何かがあれば尚良いと思います。(委員)</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点 長野県地球温暖化対策条例の改正に伴う自然エネルギー検討制度に合わせた取り組みを検討する。</p> <p>課題や新たに設定すべき目標 「安曇野市総合計画(平成25年度～平成29年度)」において平成29年度までに住宅用太陽光発電システム設置戸数を3,000戸とする数値目標が定められている。平成26年度終了時点の設置戸数は2,438戸と見込まれており、順調に推移しているが、来年度以降の動向も注視していく。 ・国の補助制度の廃止等に伴う来年度以降の需要とその対応を計画していく必要がある。(委員) ・目標値は予算執行率ではなく、発電、発熱量で設定する。(委員)</p>
----------------	--

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-2 小水力発電の調査・検討・活用の取り組み
目的	農業水利施設を利用した水力発電により土地改良施設の電力需要に対処し、または、余剰電力を電力会社に売電することによって、土地改良施設の維持管理費を軽減する。
目標	有明土地改良区小水力発電所の設計 新規発電所の建設計画の推進
担当課・係	耕地林務課 耕地担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
土地改良区が実施する小水力発電事業に対する支援。 [定量 2]	1 箇所	1 打合せ会議への出席 【穂高地域有明宮城地区 大戸井堰の施設を利用した小水力発電所の建設について】 ・設計協議 ・地元への周知等の検討 ・情報提供等	H26.7.4	E
		2 先進地視察の開催 安曇野市と市内の 12 土地改良区による小水力発電所の視察研修を実施した。(松本市波田堰等)	H27.3.4	

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量 / 目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計協議について、県担当課、市耕地担当及び有明土地改良区との合同による打合せを行い、確実な事業実施に向けた取り組みが行なえた。 ・市内土地改良区との小水力事業先進地への視察研修を実施し認識を深めた。 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小水力事業の啓蒙、普及があまり出来なかった。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後更なる小水力事業の啓蒙、普及を行う。
	<p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入が採算面で効果のあるものなのかの検証、または導入の意義を明確にして工程表を作ってください。(委員)

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-3 バイオマス燃料の調査・検討・活用の取り組み
目的	林地に放置されている未利用材の活用。
目標	薪ボイラーの公共施設への導入と運用 松枯損木、間伐材等の利用によるバイオマス燃料の民間施設への供給
担当課・係	耕地林務課林務担当

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check										
内容	予定	結果	実施日	点検・評価										
薪ボイラーの運用検証 (薪使用量、効率的な運転試験等) [定量 2]	1 施設	運用検証実施 委託料 1,296,000 円 (予算執行率 100%)	4~7 月	A										
		年間薪利用量 186 m ³ 0.8 m ³ × 232 日 = 186 m ³ ・松くい虫被害木等林地残材の有効活用及び、二酸化炭素の削減としての効果がある。 燃料使用量 (天平の森)	4~3 月	A										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>灯油ℓ</th> <th>LPG m³</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>11,274</td> <td>699</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>10,500</td> <td>732</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>6,000</td> <td>869</td> </tr> </tbody> </table>	年度		灯油ℓ	LPG m ³	24	11,274	699	25	10,500	732	26	6,000
年度	灯油ℓ	LPG m ³												
24	11,274	699												
25	10,500	732												
26	6,000	869												
		・モデル事業として取り組んでいる。 ・補助事業での材取扱量の目標を5年後まで設定し取り組んでおり継続性がある。(指定管理者と協定締結)	H25 年 10 月協定締結 5 年間	A										
新設公共施設への薪ボイラー設置 [定量 2]	1 施設	設置に向けての設計を進めたが、予定された公共施設建設が延期されたため未実施となった。	-	E										

評価

- ・ 定量-1 : 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2 : 実施数量/目標数量 × 100 = 90 ~ 100% A 60 ~ 89% B 30 ~ 59% C 10 ~ 29% D 0 ~ 9% E
- ・ 定性 : 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

本年度の実績評価	
総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松くい虫被害木等の林地残材の有効活用につながった。 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した薪ボイラーの有効性の検証。 長期スパンでの検証が必要。

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薪ボイラー使用のメリット、デメリットを把握したうえでの、普及促進活動。
	<p>課題や新たに設定すべき目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薪ボイラーの継続的な使用による維持費等の費用対効果。 ・ 薪燃料を継続して安定確保するための供給経路の確認。

平成 26 年度 重点プロジェクト別 点検評価書 (中間時 / 年度末時)

プロジェクトの基本事項

重点 PJ 名	: 自然エネルギー導入を進める
事業名	-4 地中熱の調査・検討・活用の取り組み
目的	環境共有資源である地下水・地盤環境の持続可能な利用を行うと共に地中熱利用の普及促進。
目標	新規導入事業の検討
担当課・係	関係各課

平成 26 年度の実施状況

Plan		Do		Check
内容	予定	結果	実施日	点検・評価
地中熱利用調査 【概要】 1 目的 地中熱交換機を設置する場合、その本数が建設費に直結することから、有効熱伝導率などの地盤情報を得たいため。 2 内容 ボーリング坑 (約 100m) の掘削とサーマルレスポンステスト 3 予定地 ボーリング坑の調査後の利用を勘案し、公共施設を将来建設する予定のある市有地 [定量 1]	平成 26 年度	本年度事業は見送り理由 ・ 予定した県補助金の交付対象外となったこと ・ 当初考えていた施設の稼働時間・規模等では、トータルコスト的に見合わないこと ・ 国の補助金等の活用には、施設の構想段階から導入の検討が必要なこと 等	-	C

評価

- ・ 定量-1: 実施した A 実施しない E 計画したが中止した C
- ・ 定量-2: 実施数量/目標数量×100=90~100% A 60~89% B 30~59% C 10~29% D 0~9% E
- ・ 定性: 良かった A ふつうだった C 悪かった E

本年度の実績評価

総合評価 (Check)	総合コメント
	<p>効果的だった取り組みや項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境課・政策経営課で先進事例施設等の視察等を実施した。 ・ 平成26年11月から三郷サラダ市前実証ハウスにおいて、地下水を用いた熱エネルギーと水温調整を併用した効率的システムの開発を目的に、農水省攻めの農水プロジェクト園芸栽培・周年供給技術確立グループ及び信州大学による実証実験が始まっている。 <p>不十分だった取り組みや項目、その要因</p> <p>予定した県補助金の交付対象外となったことや当初考えていた施設の稼働時間・規模等では、トータルコスト的に見合わないことなどから、本年度の事業実施は見送りとした。</p>

次年度への展望と課題など

改善 (Action)	<p>改善すべき取り組み・項目と修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の進める環境政策の視点から、トータルコストに加え、環境負荷（又は、環境コスト）の視点を加えるべきではないか。 ・ イニシャルコストを抑えるために、国等の補助金の活用を施設ごとに、施設整備の構想段階から検討していく必要があるのではないか。
	<p>課題や新たに設定すべき目標</p> <p>地中熱利用ヒートポンプは、欧米では普及が進んでいるので、日本でも普及とイニシャルコストの低下のスパイラルにより、一般住宅でも普及が進む可能性があることから、市の公共施設に先進的に導入し</p> <p>次のメリットの実証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の空調システムと比較しての省コスト効果 ・ 太陽光や風力と異なり天候や地域に左右されない安定性 ・ 空気熱と異なり大気中へ排熱を出さないこと ・ 省エネルギーによるCO2の排出量の削減 <p>地下水、地盤温度、地下水質等のモニタリングなどを行い、民間の施設等の導入を後押しする施策が必要ではないか。</p>

4 次年度へ向けて

4.1 市全体のテーマの進行

(1) 年次テーマ

本年度の年次テーマは、昨年度に引き続き「安曇野の環境を知り、育み、伝える ～みんなで広げよう活動の輪～」でした。市民自らの手で安曇野の環境をより良くしていくことを目指してこのテーマが選定され、「第二次安曇野市環境行動計画」（平成 26 年 3 月策定）に基づいて計画を作成し、主体となる市民、事業者、行政が何をすればよいのか、より具体的に分かりやすく示しました。結果として、本報告書にみられますように一定の成果をあげることができました。

次年度は、本年度の成果を踏まえつつ同じテーマのもと、「第二次安曇野市環境行動計画」で示された 11 のプロジェクトを推進し、誰もが具体的に取り組むことができ、参加できる仕組みづくりを目指します。

年次テーマの展開方法として、特に市民が主体となる重点プロジェクトを着実に推進するとともに、環境フェアなどのイベントや広報などを通じた普及啓発活動を積極的におこないます。

- 市民が主体となる重点プロジェクト
 - 緑化と省エネを主体とした CO₂ 削減に取り組む
 - 安曇野にふさわしい生態系を守る
 - 身近な水辺を育み地域の歴史と文化を大切にする
- イベントなどでのテーマ設定
 - 安曇野環境フェア 2014 でのテーマ設定
 - 安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム など
- 広報などでの普及啓発活動
 - 広報誌などによる取り組みの宣伝
 - 安曇野市環境基本計画関連情報サイト「安曇野エコプラン.net」の活用 など

(2) 長期テーマ

環境基本計画の計画期間である平成 20 年度～平成 29 年度を通じて、「地球温暖化防止にみんなで行く」という長期テーマが設定されています。そこで、次年度も本年度に引き続き、同じテーマで取り組みの展開をはかります。

4.2 重点プロジェクトの推進

計画の立案に際しては、第一次環境行動計画で取り組まれてきた重点プロジェクトを検証し、取り組み方針について「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」と、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」の二つに区分します。

「環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）」では、主体となる市民、事業者、行政が具体的に何をすればよいのか分かる形で環境に関する行動のプログラム化を行い、全市的に展開していくことを目指します。また、「計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）」では、他計画の方針に沿った取り組みについて推進会議で進行管理を行い、推進と実践を進めます。

次年度の重点プロジェクトの区分

環境行動プロジェクト（プログラム化と進行管理）

ねらい

- ・ 取り組みが必要な活動について、市民、事業者、行政が何をすればよいのか分かるようプログラム化し、具体的に進めていきます。
- ・ 達成度が分かるよう数値目標を設定し、進行を管理します。

網羅する範囲

- ・ 第一次行動計画では取り組みが十分ではなかった活動
- ・ 他計画では網羅しきれない活動

計画推進プロジェクト（計画に沿った推進と実践）

ねらい

- ・ 庁内調整会議など関係部署と連携しながら、進行を管理します。
- ・ 年度内に2回程度の頻度で、関係部署の担当者から進捗状況について報告を受け、工程が遅れたり見直しが必要と判断される項目については、取り組みの改善を要望します。

網羅する範囲

- ・ 他計画等で推進されている活動

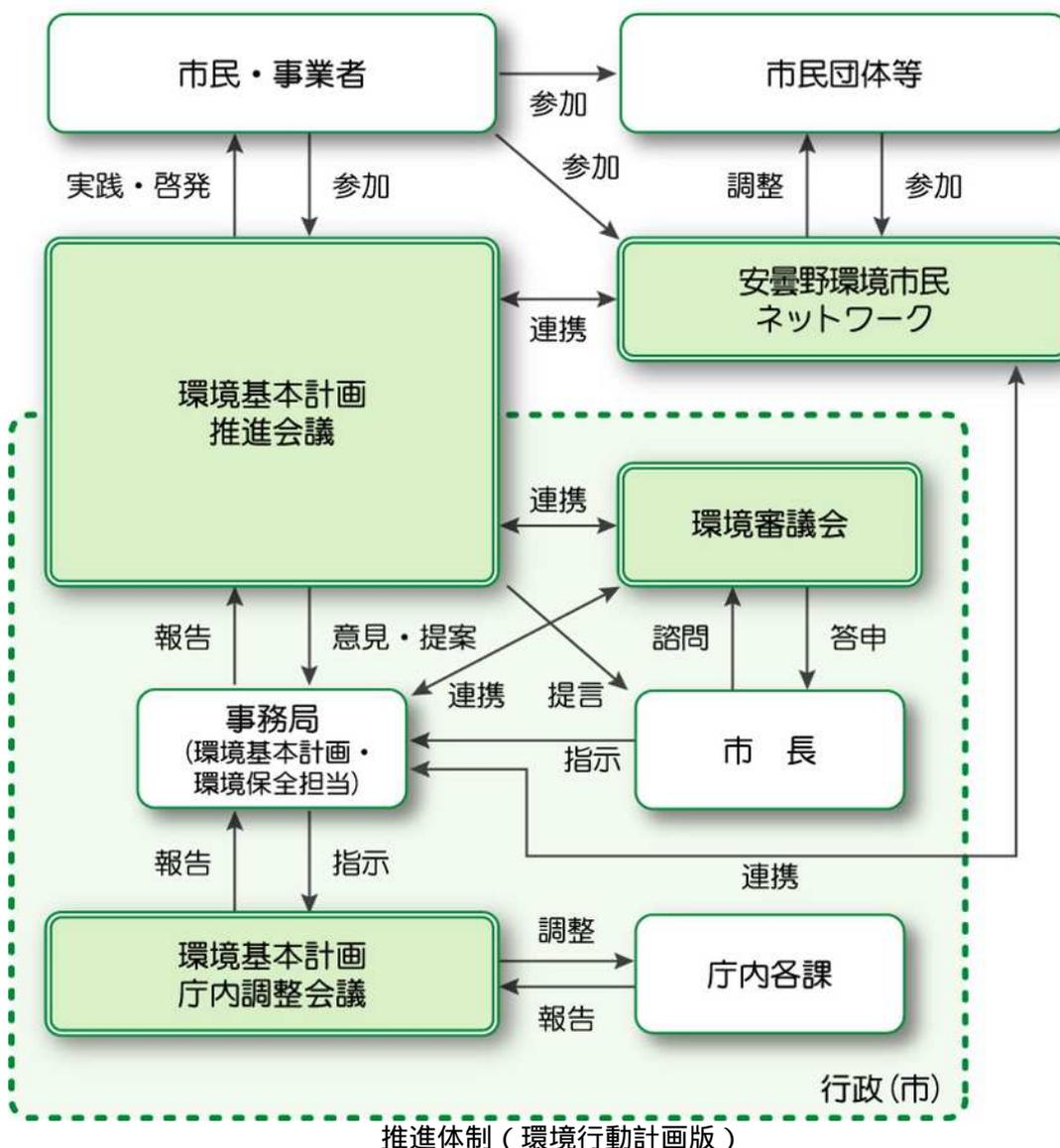
参考資料 1：環境基本計画の推進体制と進行管理

【推進体制】

環境基本計画は、市民・事業者・行政、その他関係する組織・団体など、さまざまな主体の各自の取り組みと、相互の連携や協働によって推進する必要があります。

環境基本計画を受けて策定した環境行動計画において定めた推進体制を、下の図に示しました。中核となるのは、市民・事業者・行政を含めた組織である「環境基本計画推進会議」であり、市全体としての計画の進捗状況の把握、課題点および対応策の検討などを行う機能です。このほか、行政内部の調整組織である「環境基本計画庁内調整会議」、専門的な見地から計画の達成・進捗状況を点検・評価する「環境審議会」のそれぞれが連携して計画の推進をはかります。

また、平成 21 年 9 月に発足した「安曇野環境市民ネットワーク」も、さまざまな市民団体などをとりまとめ、団体間の調整・連携をはかるとともに、事業者・行政との協働の窓口として機能します。



【進行管理】

マネジメントの基本的なサイクルである PDCA サイクルに従い、毎年改善をはかります。

このサイクルは、毎年においては年間の取り組み予定をまとめた実施計画書と取り組み結果をまとめた年次報告書が基本となります。

第一次行動計画では、推進会議と安曇野環境市民ネットワーク（以下、「ネットワーク」という。）及び環境基本計画庁内調整会議（以下、「庁内調整会議」という。）との連携が十分ではありませんでした。そこで第二次行動計画では、この連携体制についても強化をはかります。PDCA サイクルの段階ごとの各主体の役割について、以下に示します。

計画する（Plan）

取り組みを企画し、関係者と調整の上、市民・事業者に対して広報・周知します。

推進会議 } 相互に連携しながら取り組みを企画し、実施計画書を作成して、情報
庁内調整会議 } を市民・事業者に広報・周知します。

ネットワーク：企画を共有し、協議の上、主体的に所属団体の計画に反映します。

市民・市民団体等・事業者：取り組みの情報を入手します。

実行する（Do）

企画に基づいて実践・啓発を行い、市民・事業者の参加をはかります。

推進会議：庁内調整会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。

庁内調整会議：推進会議、ネットワークと連携して、実践・啓発を行います。
（ネットワークへの説明など）

ネットワーク：推進会議、庁内調整会議と連携して、啓発を行います。
（所属団体への参加の呼びかけなど）

市民・市民団体等・事業者：プログラムに積極的に参加します。

点検する・評価する（Check）

取り組みの結果を集約し、各会議に報告して、点検・評価を受けます。

推進会議 } 相互に連携しながら取り組みの結果をとりまとめ、年次報告書を作
庁内調整会議 } 成して環境審議会に報告します。

ネットワーク：所属団体の活動結果をとりまとめ、推進会議、庁内調整会議と情報共有します。

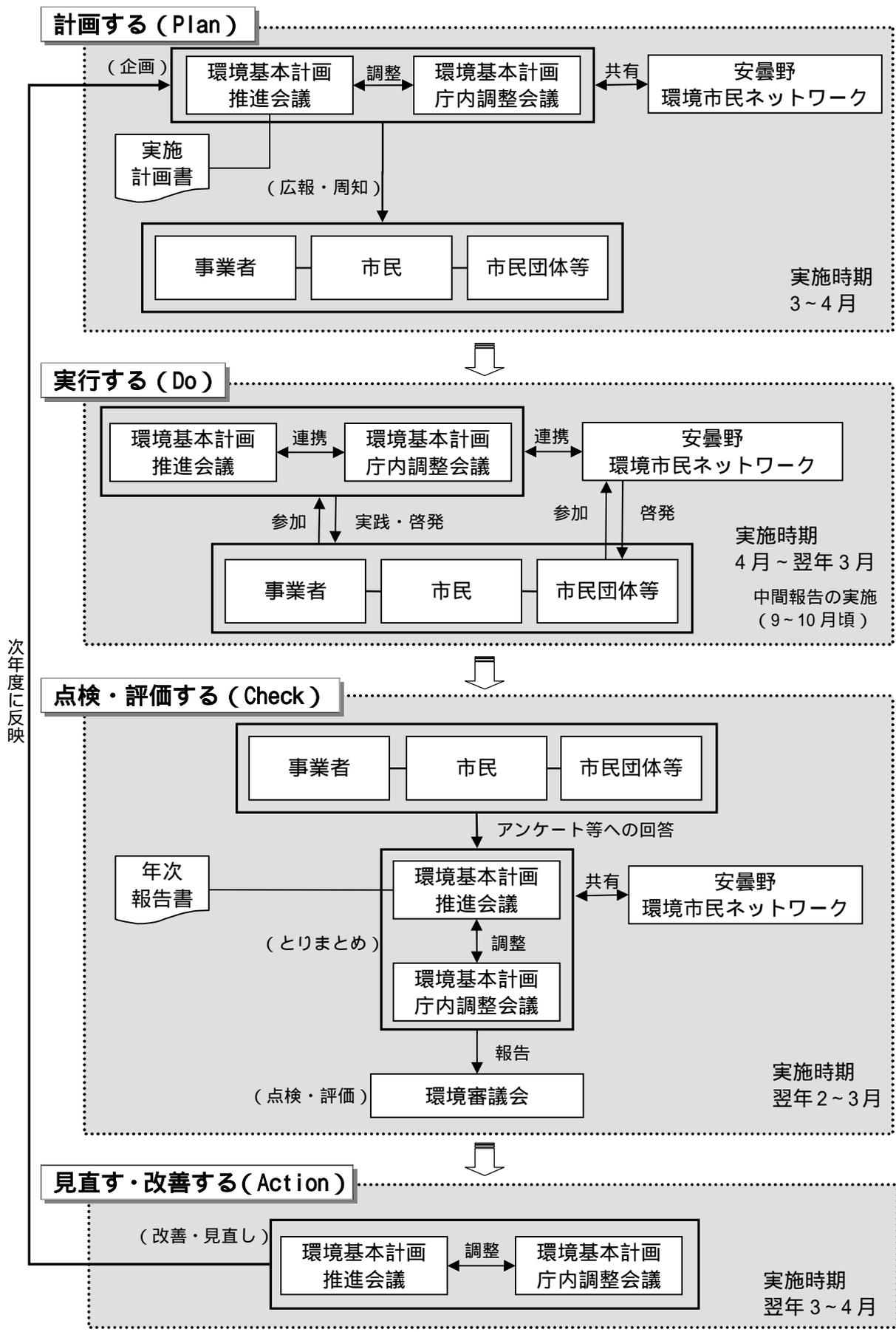
市民・市民団体等・事業者：取り組みに参加した結果を、アンケートへの回答等により報告します。

環境審議会：年次報告書について、点検・評価します。

見直す・改善する（Action）

点検・評価の結果についてとりまとめ、改善点を次年度の計画へ反映します。

推進会議 } 相互に調整をはかりながら、改善点を整理し、次年度の計画へ反映
庁内調整会議 } します。



進行管理 (環境行動計画版)

参考資料 2 : 安曇野市環境基本計画推進会議委員 名簿

役 職	氏 名	所属など	区 分	備 考
会 長	千國 温	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
副会長	植松 晃岳			
委員	川井 敏克	安曇野市商工会	事業団体代表	
	丸山 祐司	安曇野工業会		
	丸山 多江	安曇野市農業委員会		
	青柳 聡	J A あづみ		
	望月 静美	安曇野市消費者の会	環境関連団体 代表	
	岡江 正	長野県建築士会 安曇野支部		
	太田 忠雄	安曇野市地球温暖化 防止活動推進員協議会		
	横田 耕太郎	安曇野環境市民ネットワーク		
	本木 修一		公募委員	
	鈴木 慶次郎			
	樋口 嘉一	旧環境基本計画策定委員	市長推薦	
	宮崎 崇徳			
	近藤 眞奈美			
中村 隆	区長会			

(任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)



推進会議の様子 (平成 26 年 9 月 30 日)



推進会議の様子 (平成 26 年 11 月 11 日)

参考資料3：写真アルバム 【環境フェア】



開会式



漫才 & 科学実験ショー



人形劇「たぬきどんと雪だるま」



リサイクル自転車の展示・頒布



メインアリーナ



屋内ブース（体験コーナー）



屋外ブース



屋外ブース（物品販売）



安曇野市版レッドデータブック紹介



環境活動発表会（団体・企業）



環境活動発表会（学校）



「三角島」スケッチコンテスト表彰式



「緑のカーテン」コンテスト表彰式



集合写真

参考資料4：イベント参加団体一覧

【安曇野環境フェア 2014】

出展団体（分類ごとの五十音順）

分類	団体名	分類	団体名
環境全般	安曇野工業会	生活	長野県電波適正利用推進員協議会
	安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会		(有)本郷鶏肉
	関東農政局 中信平二期農業水利事業所		マックスバリュ長野(株)
	キッセイ薬品工業(株)		(株)みのり建設
	(株)サクセン		山崎商店
	信州環境フェア実行委員会		(株)ランド・エコ
	信州大学松本キャンパス環境ISO学生委員会		安曇野市下水道課、安曇野建設事務所、 (公財)長野県下水道公社
	信州水環境マップ・ネットワーク		あづみの再活の松プロジェクト
	セイコーエプソン労働組合		安曇野百選プロジェクト
自然	安曇野緑の会	景観	安曇野ふるさとづくり応援団
	NPO法人 川の自然と文化研究所		安曇野まちなかにぎわいプロジェクト
	環境省 松本自然環境事務所		三角島ふるさとの森プロジェクト
	NPO法人信州ツキノワグマ研究会		屋敷林の歴史的まちなみプロジェクト
	その他活動発表	環境学習	アルプスあづみの公園管理センター
	田淵行男記念館子ども自然観察教室「むしの会」		エクセラン高等学校
	長野県烏川渓谷緑地 市民会議 長野県烏川渓谷緑地 環境管理事務所		(一財)公園財団 プロジェクト・ワイルド事務局
	三郷昆虫クラブ		トゥモロウ・リーディング・倶楽部(T・L・C)
	NPO森倶楽部21		マイ箸づくりサポートボランティア
安曇野市版レッドデータブック作成委員会	三郷小学校5学年		
生活	あづみ太陽光発電研究会	エネルギー	水で遊べるおもちゃづくり
	あづみ野建設労働組合		安曇野市耕地林務課
	安曇野建築三会		エコ倶楽部信州
	安曇野市消費者の会		かえる311
	安曇野市地域づくり課・安曇野防犯協会連合会		(株)角藤 環境ソリューション室 地中熱
	安曇野市豊科ささえあいセンター にじ		(有)唐木電設
	安曇野市廃棄物対策課		(株)サンジュニア
	安曇野市 不用食器リサイクル実行委員会		ストーブ工房Vesta
	NPO法人 あづみ野風土舎		太陽力(株)
	(株)キクイチ		(株)竹村製作所
	コープながの		中部原子力懇談会
	特定非営利法人CO2バンク推進機構		ニチコン(株)
	スマートラボ安曇野		松本日産自動車(株)
	生活クラブ生活協同合		日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)Teamめとば
	(株)ちくま精機		(株)丸山鐵工所

参考資料5：環境行動プロジェクトの取り組み状況

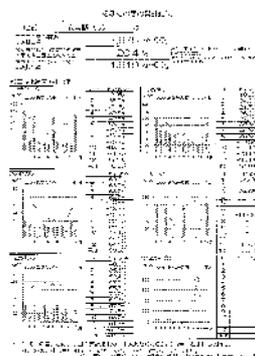
ここでは、本年度取り組んだプロジェクトごとの成果物や実施状況の写真などをご紹介します。

-1 緑を増やしてCO₂を削減しよう 緑のカーテン（安曇野市役所豊科支所）



（撮影：平成26年8月18日）

-2 CO₂排出量を「見える化」し、 生活スタイルを改善しよう 環境家計簿



-1 身近に生息・生育する外来生物を調べよう -2 早期外来植物対策で繁殖拡大を防ごう アレチウリ駆除



（撮影：平成26年7月26日）

-3 安曇野自然まるわかり観察会 湧水地帯の豊かな水辺 自然体験交流センターせせらぎ



（撮影：平成26年8月23日）

-1 安曇野水辺体験 長野県烏川渓谷緑地 水中生物観察



（撮影：平成26年6月7日）

-2 歩いて楽しいまちづくり 岩州公園 現地踏査



（撮影：平成26年10月24日）

参考資料6：安曇野環境市民ネットワーク加盟団体の年度内の活動状況

団体名	野生生物資料情報室	報告者	植松 晃岳	
		会員数	10人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 5月1日	三角島サギ調査	穂高	3人	
6月21日 6月22日	ライチョウ観察会（山小屋主催）	燕岳	15人	一般
6月28日 6月29日	ライチョウ観察会（山小屋主催）	燕岳	15人	一般
12月～ 3月間に	カモシカ調査（長野県依頼）	穂高	2人	
平成27年 1月25日	アニマルトラッキング （烏川渓谷緑地主催）	烏川	16人	一般・ 小学生
2月11日	スノーシュートレッキング （烏川渓谷緑地主催）	烏川	25人	一般・ 小学生

団体名	安曇野緑の会	報告者	小河 深美	
		会員数	28人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 3月24日 3月26日	桜の植樹（84本） 本団体では平成25年度となる	あづみ野公園 （牧地区）	10人	
4月21日	観桜会	安曇野市	29人	一般
6月14日	春の植物観察会（外来植物）	穂高	12人	一般・ 小中学生
7月13日	夏の植物観察会（公民館と共催）	穂高浅川山 山麓	16人	一般
9月20日	秋の植物観察会（キノコ）	穂高	-人	雨天中止
10月11日 10月12日	安曇野環境フェア2014	堀金	会員：5人	
10月24日 10月25日 10月26日	穂高文化祭	穂高	会員：6人	
3月7日	総会	穂高		

団体名	NPO法人 川の自然と文化研究所	報告者	事務局長 松井 一晃	
		会員数	23人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 7月12日	第9回川の自然と文化講演会	豊科	50人	一般
8月24日	住吉神社水路ヘイケボタル生き物調査	三郷	5人	一般
8月25日	川の生き物調査	明科	20人	明科中学校 生徒
10月11日 10月12日	安曇野環境フェア	堀金		展示等 （親子他）
11月9日	地域成人講座（北穂高青木花見）	穂高	20人	一般
12月8日	犀川舟運について（現地、講義）	松本	40人	田川小学校 生徒

団体名	田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」	報告者	伊藤 広美	
		会員数	99人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 4月19日	開講式、自然観察会	豊科	37人	
5月10日	自然観察会	堀金	33人	
6月7日	自然観察会	堀金	27人	
7月12日	昆虫採集	豊科	27人	
9月13日	昆虫採集	明科	27人	
11月8日	化石クリーニングと博物館見学	松本市四賀	40人	
平成27年 1月17日	野鳥観察会	豊科	13人	
2月21日	修了式、講演会	豊科		

団体名	烏川渓谷緑地市民会議(1/3)	報告者	佐々木 俊之	
		会員数		
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 4月4日	調査準備 調査プロット内清掃等 落枝・枯葉・笹葉	長野県烏川 渓谷緑地 ・森林エリア	1人	
4月5日	調査準備 芽出し確認、調査区メッシュ、 セッティング	森林エリア	2人	
4月9日	カタクリ調査 調査プロット内芽出し調 査	森林エリア	3人	
4月12日	巡回点検 樹名板設置確認 新園路位置 確認等	森林エリア	9人	
4月12日	カタクリ調査 調査プロット内芽出し調 査	森林エリア	3人	
4月15日	林床植物調査	森林エリア	3人	
4月16日	樹木調査 樹高測定調査	森林エリア	3人	
4月23日	カタクリ調査 開花調査	森林エリア	5人	
4月24日	カタクリ観察会	長野県烏川 渓谷緑地	29人	一般参加者
4月25日	カタクリ調査 開花カウント調査	森林エリア	4人	
4月27日	オオルリ観察会	長野県烏川 渓谷緑地	22人	一般参加者
4月28日 ・5月2日	カタクリ調査 葉形状計測作業	森林エリア	3人	
4月29日	カタクリ調査 カタクリ変異個体調査(4 倍体)	森林エリア	2人	
4月29日	オオルリ観察会	長野県烏川 渓谷緑地	22人	
5月7日	樹木調査 調査区メッシュライン引き	森林エリア	1人	
5月10日	巡回点検 状況確認、新園路確認	森林エリア	8人	
5月10日 ・12日・ 16日・17 日・28日	樹木調査 ヒノキ林 林床植物調査、広葉 樹実生個体数調査	森林エリア	3人(16 日:1人)	
5月14日	樹木調査 広葉樹実生個体数調査	森林エリア	4人	
5月17日	信州と飛騨を結ぶ古道(間道)を歩く~ 春~	長野県烏川 渓谷緑地	31人	一般参加者

団体名	烏川渓谷緑地市民会議(2/3)	報告者	佐々木 俊之	
		会員数		
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
5月22日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	119人	豊科北小学校
5月24日 ・27日	カタクリ調査	結実調査	3人	
5月25日	樹木調査 ヒノキ林樹管投影図作成、調査	森林エリア	3人	
6月1日	樹木調査 シラカンパ天然更新試験地清掃/ササバギンラン植生調査	森林エリア	1人	
6月2日	植物調査 ササバギンラン植生調査/稚樹生育個体数調査	森林エリア	6人	
6月3日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	86人	穂高西小学校
6月4日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	26人	明北小学校
6月7日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	60人	安曇野市環境課
6月10日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	57人	明南小学校
6月10日	稚樹生育個体数調査	森林エリア	4人	
6月11日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	145人	穂高北小学校
6月14日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	160人	穂高南小学校
6月17日	植物調査 稚樹生育個体数調査/シラカンパ天然更新試験地攪乱作業	森林エリア	5人	
6月21日	巡回点検 新園路及び園路改良工事箇所確認	森林エリア	7人	
6月22日	あぶらむし観察会	長野県烏川 渓谷緑地	22人	一般参加者
6月25日	第70回市民会議	森林エリア	14人	
6月29日	植物調査 シラカンパ天然更新試験地区画ライン設置事業	森林エリア	1人	穂高北小学校
6月30日	植物調査 シラカンパ天然更新試験地区画内既存実生植物調査	森林エリア	1人	穂高南小学校
7月2日	市民会議運営委員会 新道チップ舗装について	森林エリア	9人	
7月6日	森林エリア探鳥会	長野県烏川 渓谷緑地	29人	一般参加者
7月9日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	38人	三郷小学校 あすなる学級
7月13日	園内整備 新道シート張り	森林エリア	11人	
7月16日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	19人	生坂小学校
7月19日	園内整備 新道シート張り	森林エリア	8人	
7月25日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	29人	広丘よしだ 幼稚園

団体名	烏川渓谷緑地市民会議(3/3)	報告者	佐々木 俊之	
		会員数		
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
7月25日	園内整備 樹名板設置	森林エリア	5人	
7月26日	カミキリムシ観察会	長野県烏川 渓谷緑地	13人	一般参加者
8月1日	環境学習(安曇野市交流事業)	長野県烏川 渓谷緑地	20人	福岡県東区
8月2日 ・5日	園内整備 サル害樹名板補修	森林エリア	3人	
8月2日	植物楽しみ方と眼からうろこの植物写真術	長野県烏川 渓谷緑地	20人	一般参加者
8月3日	昆虫の目から見た棲みよい森づくり	長野県烏川 渓谷緑地	8人	一般参加者
8月9日 10日	夏休みお助け隊 自然素材でクラフト体験(デレイドスコープづくり)	長野県烏川 渓谷緑地	7人(10 日:9人)	一般参加者
8月27日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	40人	千葉県東金 市(小学生)
9月2日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	75人	三郷小学校 (A隊)
9月3日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	109人	三郷小学校 (B隊)
9月9日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	144人	豊科南中 学校
9月10日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	37人	豊科東中 学校
9月13日	巡回点検 ツキノワグマ活動状況、フィールドサイン等確認	森林エリア	7人	
10月8日	環境学習	長野県烏川 渓谷緑地	21人	横浜市立港 南台第三小 学校
10月18日	巡回点検 園内状況確認	森林エリア	8人	
10月25日	環境保全に取り組む市民大集合	長野県烏川 渓谷緑地	41人	一般参加者
10月26日	樹木の紅葉観察学習会	長野県烏川 渓谷緑地	15人	一般参加者
11月8日	巡回点検 園内状況確認	森林エリア	2人	
11月9日	枯損木伐採 森林エリア ウリハダカエデ伐採	森林エリア	9人	
11月9日 ・15日	園内ガイド スタッフと歩く晩秋の樹木観察	長野県烏川 渓谷緑地	11人(9 日)、10人 (15日)	一般参加者
12月20日	ニホンカモシカ学習会	長野県烏川 渓谷緑地	18人	一般参加者
平成27年 1月25日	アニマルトラック観察会	長野県烏川 渓谷緑地	23人	一般参加者
2月11日	スノーシューハイク 森林エリア	長野県烏川 渓谷緑地	30人	一般参加者
3月14日	冬越しの生き物とおオルリシジミのお話	長野県烏川 渓谷緑地		一般参加者

団体名	NPO 法人 森倶楽部 21	報告者	牛山 宣久	
		会員数		
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 8 月 28 日	植物調査	長峰山	15 人	
9 月 16 日	A コープとの里山契約	天平の森	50 人	森倶楽部 21、 A コープ、 安曇野市
9 月 28 日	フォーラム 10	天平の森	30 人	
10 月 14 日	A コープとの里山事業	天平の森	30 人	
10 月 30 日	野鳥調査	長峰山	15 人	
11 月 11 日	A コープとの里山事業	天平の森	30 人	
11 月 27 日	野鳥調査	長峰山	15 人	
2 回/月	蝶の森の維持管理	長峰山	10 人	16 回
2 回/月	絆の森の維持管理	長峰山	15 人	14 回

団体名	NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会	報告者	浜口 あかり	
		会員数	130 名	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 4 月 19 日	ツキノワグマ等に関するシンポジウム	松本市	40 人	
9 月 28 日 9 月 29 日	「ぼくらの学校」(イベント)への出展	松本市	150 人	
10 月 11 日 10 月 12 日	安曇野環境フェアへ出展	堀金		
10 月 18 日 10 月 19 日	茶臼山動物園祭り	長野市		

団体名	三角島ふるさとの森プロジェクト	報告者	場々 洋介	
		会員数	約 10 人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 7 月 6 日	アレチウリ駆除	穂高	10 人	
8 月 3 日	アレチウリ駆除	穂高	10 人	
9 月 7 日	三角島の自然を描く集い	穂高	50 人	
10 月 11 日 10 月 12 日	安曇野環境フェア 展示	堀金		
10 月 12 日	三角島の自然を描く集い 表彰	堀金	20 人	
11 月 22 日	三角島植樹祭	穂高	30 人	
1 月 16 日 ~	松本合同庁舎に絵画展示	松本	10 人	

団体名	屋敷林と歴史的まちなみ プロジェクト	報告者	場々 洋介	
		会員数	約 10 人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
通年	定例プロジェクト会議	穂高	60 人	
11 月 27 日	屋敷林 紹介	三郷	10 人	
11 月 29 日	落ち葉拾いボランティア	三郷		雪にて中止
平成 27 年 3 月 21 日	安曇野屋敷林フォーラム 2015	穂高	100 人	

団体名	アルプス花街道実行委員会	報告者	吉野 大輝	
		会員数	約 1,600 人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 5 月 11 日	第 1 回実行委員会 花の管理、植え方について説明	豊科	39 人	
5 月 11 日 ~ 24 日	花壇の土づくり	市内 10 箇所 の花街道	一連して 全参加者 約 1,600 人	
5 月 24 日	一斉定植			
5 月 24 日 ~ 11 月	花の管理、水やり、道路の美化活動			
11 月	花の撤去			

団体名	安曇野ふるさとづくり応援団	報告者	宮崎 崇徳	
		会員数	24 名	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 4 月 ~ 6 月	安曇野ふるさとさんぽ 2014 秋	市内	約 90 人	4 コース
4 月	第 20 回ふるさとウォッチング	堀金	約 90 人	
6 月	安曇野暮らしセミナー（東京）	東京	約 60 人	
8 月	安曇野検定地域学習講座	三郷	約 50 人	
10 月	安曇野検定地域学習講座	明科	約 40 人	
11 月	安曇野ふるさとさんぽ 2014 秋	市内	約 60 人	4 コース
12 月	安曇野暮らしセミナー（大阪）	大阪	約 30 人	

団体名	安曇野百選プロジェクト	報告者	宮崎 崇徳	
		会員数	15 名	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 11 月	安曇野百選ウォークラリー	穂高	約 120 人	
12 月	安曇野みちあかり	穂高		
平成 27 年 2 月	安曇野百選ウォークラリー	穂高	約 120 人	
2 月	安曇野みちあかり	穂高		
随時	リゾートビュー方言寸劇	JR 車内		
随時	ビューポイント募集	市内		

団体名	安曇野市消費者の会（1/2）	報告者	平林 千代	
		会員数	78 人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 6 月 21 日	あやめ祭りフリーマーケット	明科	- 人	雨のため 中止
6 月 29 日	あやめ祭り深緑ウォーキング	明科	50 人	一般

団体名	安曇野市消費者の会(2/2)	報告者	平林 千代	
		会員数	78人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
7月19日	石鹸作り体験講座	豊科	5人	一般
8月30日	親子水のふれあい	明科	500人	小学生以下 親子
9月1日	ホームタウン明科講座	明科	15人	中学生
9月3日	紙で作る薪づくり	明科	20人	明北小
10月7日	中信諏訪消費者の会視察研修	岡谷	15人	
10月11日 10月12日	安曇野環境フェア	堀金		一般
10月24日	安曇野市消費者の会視察研修	岡谷	25人	
11月1日	明科文化祭環境展	明科	30人	一般
11月14日	環カフェ(エコグッズ製作体験他)	穂高	10人	一般
平成27年 2月18日	紙と作の薪でパン作り	明科	25人	明北小
通年	石鹸加工 その他支部主催講座 デイサービス等でのボランティア	豊科	10人	

団体名	生活協同組合コープながの(1/2)	報告者	土屋 英夫(総合企画室 広報・渉外グループ)	
		会員数	27万4千人(組合員数)	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 5月~9月	緑のカーテンコンテスト	全県募集	19(安曇野市の方からも 1件応募)	
5月 ~11月	「ふれあい農園」JAあづみとの 共同企画。月1~2回の開催	堀金	20家族 69人	自然とのふ れあい含む
5月17日	「国際協力田事業」田植え	堀金	20家族 69人	環境保全と 国際貢献
6月2日~ 7月18日	みんなでエコライフ(夏)	全県募集	4,614人	
6月28日	田んぼのがっこう「生き物を探そう!田ん ぼの探検」(JAあづみ協力)	堀金	7家族 22人	大人11、小 学生3、幼 児8)
7月30~ 31日	夏休み子ども農業体験ツアー	信濃町	小学生39人(全県から 参加のうち3人が安曇野 市の小学生)	
8月7日	川のがっこう「川の生き物探し」	自然体験 交流センタ ー	20人	8組(大人8 人、小学生 12人)
9月16日	長峰山「絆の森」「森林の里親契約締結 式」(森倶楽部21との間で)	長峰山	17人	理事長、 理事16人
10月~ H27年2月	長野県「信州あったかシェアスポット・ イベント」登録・実施	コープ安曇 野豊科店		毎月2回の 「お店の縁 側」を対象
10月11日 10月12日	安曇野環境フェア 出展「みんなでエコ! ふだんのくらしからエコを考えよう」	堀金	環境認証ラベル一覧、 お米ができるまで等	

団体名	生活協同組合コープながの(2/2)	報告者	土屋 英夫(総合企画室 広報・渉外グループ)	
		会員数	27万4千人(組員数)	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
11月	コープ会「白クマ危機!私たちに何ができる」コープ安曇野豊科店会場(月曜)	豊科	5人	身近な 環境問題 などを 話題に おしゃべり
	コープ会「白クマ危機!私たちに何ができる」堀金公民館会場	堀金	5人	
	コープ会「白クマ危機!私たちに何ができる」明科公民館会場	明科	8人	
	コープ会「白クマ危機!私たちに何ができる」コープ安曇野豊科店会場(木曜)	豊科	8人	
	コープ会「白クマ危機!私たちに何ができる」コープ安曇野豊科店会場(金曜)	豊科	11人	
11月11日	長峰山「絆の森」「やま仕事体験」 (森倶楽部21全面協力)	長峰山	7人	除伐など森 林整備
11月 ~12月	みんなでエコライフ(冬)	全県募集	3,630人	
平成27年 3月1日	クラフト教室(間伐材などを使用。森倶 楽部21全面協力)	コープ安曇 野豊科店		

団体名	安曇野市地球温暖化防止活動 推進員協議会	報告者	樋口 嘉一	
		会員数	4人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 5月24日	安曇野市 緑のカーテン講座 「夏の省エネ対策について」	穂高	30人	市民
9月12日	安曇野環境市民ネットワーク 環カフェ 「地球温暖化を俯瞰する」	穂高	30人	市民
10月12日	安曇野環境フェア 環境活動発表会 「安曇野地域の自然エネルギーとその活 用について」	堀金	40人	市民
11月28日	安曇野工業会 CO ₂ 削減研修会 「環境と向き合う」	豊科	15人	安曇野工業 会

団体名	マイ箸づくりサポート ボランティア	報告者	矢口 今朝雄	
		会員数	20人	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成26年 6月14日	マイ箸づくり(明盛婦人部)	三郷	21人	
7月28日	マイ箸づくり(一日市場サロン)	三郷	18人	
8月6日	マイ箸づくり(たつみ原老人クラブ)	豊科	15人	
8月18日	マイ箸づくり(桜坂エコクラブ)	豊科	8人	
8月21日	マイ箸づくり(林友ホール)	松本	40人	
8月28日	マイ箸づくり(明科ボラ連)	明科	49人	
9月1日	明科中学環境学習	明科	12人	
10月11日 10月12日	安曇野環境フェア	堀金	85人	
11月15日	環境学習会(リサイクルセンター)	豊科	22人	

団体名	安曇野工業会	報告者	環境安全部会 丸山 祐司	
		会員数	45 社	
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 6 月 25 日	緑化植樹祭	三郷南部 保育園	13 人	小学生
10 月 11 日 10 月 12 日	安曇野環境フェアへの出展	堀金		
10 月 12 日	「地下水で招く安曇野の未来」 シンポジウム パネリスト参加 (ゴールドパック(株))	堀金		
10 月 14 日	安曇野市臭気指数規制導入説明会の開催	安曇野市	23 人	安曇野工 業会会員
11 月 28 日	環境対策研修会	(株)アズミ 村田製作所	15 人	会員及び地球 温暖化防止 活動推進員

団体名	安曇野市商工会	報告者	金森	
		会員数		
日にち	内容	実施地域	参加人数	備考
平成 26 年 8 月	ものづくり講座(3日間) 3D プリンタ体験と製造業の環境活動のお話	豊科	延 80 人	小学生